

339

415

字部案内

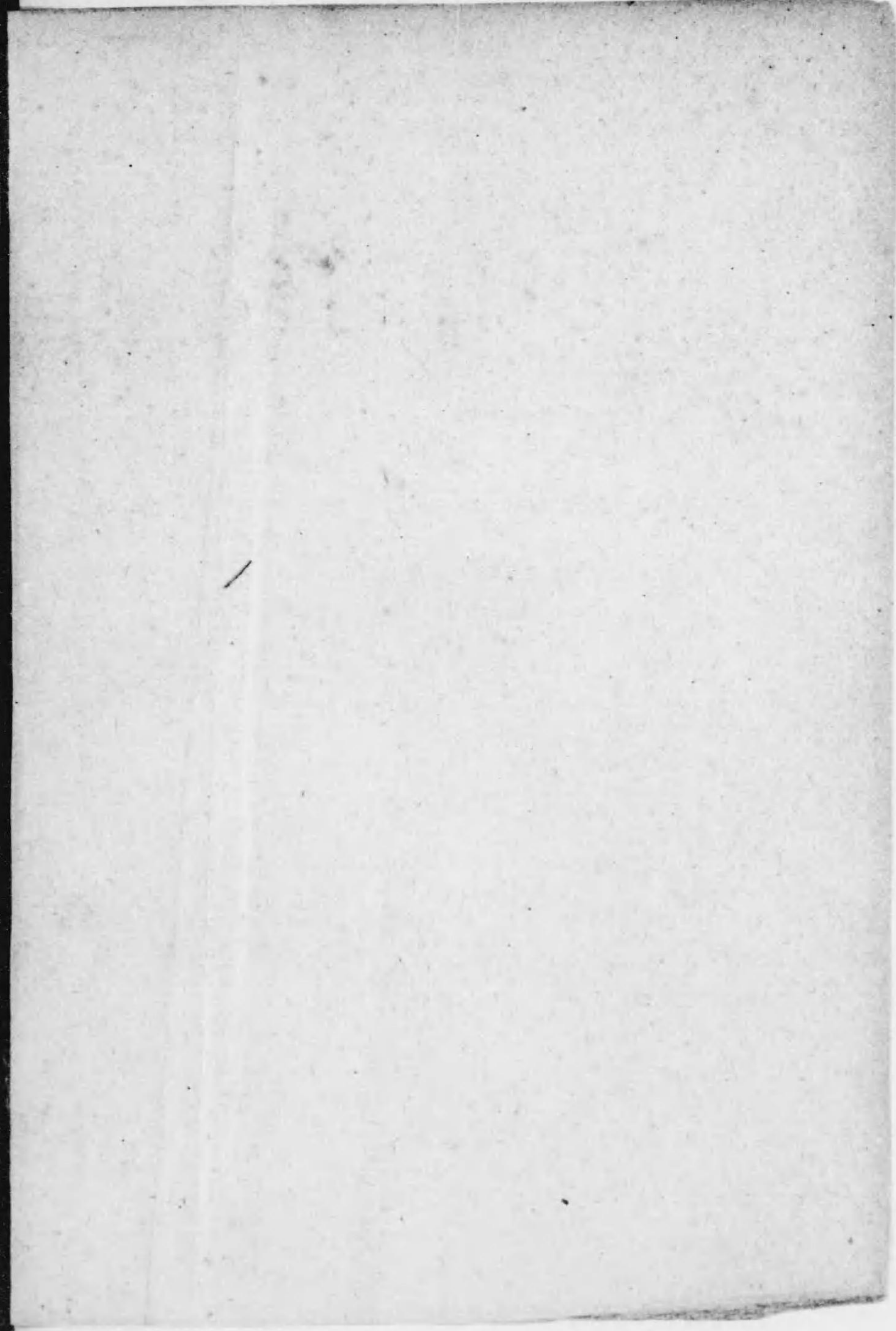


始



339
415

今期案内



宇部案内目次

宇部村全圖
新川市街圖

瀛車瀛船發着時間表

口繪 (風景十九種)

東新川常盤通○西新川本町通○
宇部輕鐵會社○沖の山炭坑○瀛
炭坑築島○宇部村役場○宇部銀
行○宇部警察分署○隔離病舎○
教念寺○宗隣寺○琴崎神社○維
新社○岬神社○水神社○炭坑海
岸(一)(二)○綠が濱○常盤池

序說

地理○歴史

人口戸數面積

男女人口○本籍戸數○族籍別



最新流行珍柄

吳服及物帶地

長門宇部新川東區本町二丁目

秋田商會

電話一六一番

地目反別○埋築地
陸海軍兵籍者
現役豫後備役

新川市街

西新川○東新川

新川橋ヨリ各所へ

沖宇部○小串○上宇部○中宇部

財政及教育

村基本財産○歳入歳出豫算○學

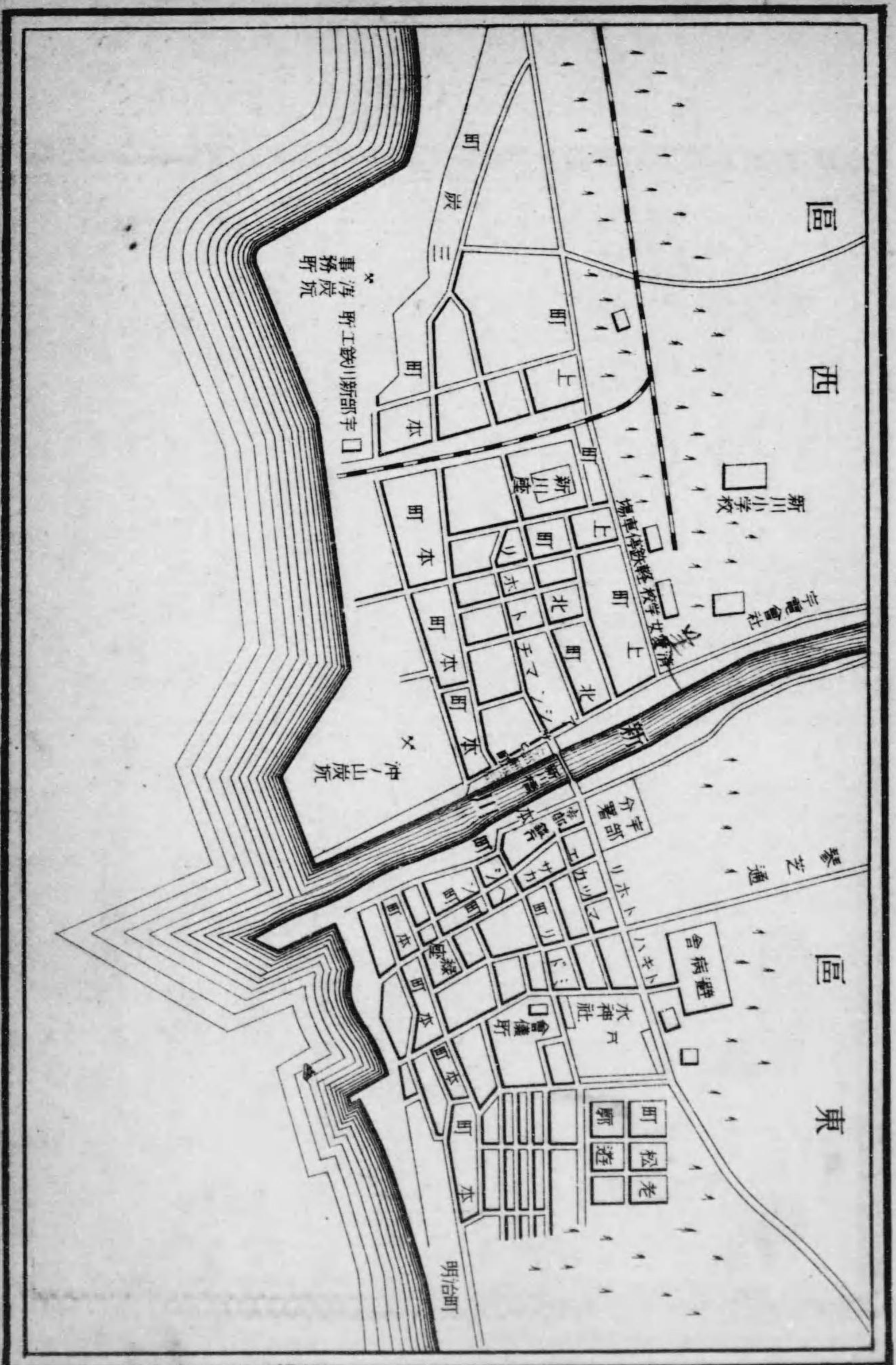
校

諸稅負擔及納稅組合

國縣村稅調定額○納稅貯金組合

貸家組合

新川市街圖



交通機關及設備……………三九

宇部輕便鐵道○海運○電信電話
宇部電氣○新川商業集會所○旅
館と料理屋○劇場と遊廓

炭坑及產業……………三三

石炭產出額○沿革○海老○米穀
豆類○養蠶

神社寺院……………三七

琴崎神社○岬神社○水神社○梶
返天滿宮○比技神社○維新社○
宗隣寺○教念寺○松月院○覺寶
寺○光善寺○淨圓寺

宇部附近の名所舊跡……………三一

常盤池○岬海濱○縁が濱○宇部
八景○霜降城趾○中山觀音○子
持御前○床波○九尾崎

炭坑會社銀行組合……………三五

全支店出張所……………三六

官公署學校團體名譽職員……………三九

宇部著名實業家人名

(廣告欄參照)

宇部特設電話番號表







輕鐵線路圖

(共稅) 表 金 賃				
驛名	藤山	岩鼻	開作	宇部
新宇川部	六錢	九錢	拾壹錢	拾五錢
	藤山	四錢	六錢	拾錢
		岩鼻	參錢	七錢
			開作	五錢
				宇部

◎ 宇部輕便鐵道株式會社
電話百十八番



瀨車瀨船發着時表

院線宇部驛發車時表

上り列車		下り列車	
發車時刻	終着驛	發車時刻	終着驛
前六時五十六分	吳	前七時二十分	終着驛
前八時五十六分	三田尻	前九時三十七分	下關
前十一時五十分	京都	前十一時五十分	全
後二時五十分	三田尻	後一時五十分	全
後四時四十分	京都	後二時五十分	全
後六時五十分	三田尻	後六時八分	全
後九時三十分	京都	後九時十三分	全

宇部輕鐵發着時表

上		下	
宇部新川發	宇部發	宇部新川發	宇部發
六、二〇八、五五二、〇〇三、〇五三、三〇八、二〇〇	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	七、三〇九、五〇二、〇五三、三〇八、二〇〇	七、四四〇、〇五三、三〇八、二〇〇
六、二七九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	九、五七二、一七三、〇五五、四二二、二七〇	九、五七二、一七三、〇五五、四二二、二七〇
六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	三、一七四、〇七二、五〇〇	三、一七四、〇七二、五〇〇
六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	三、一七四、〇七二、五〇〇	三、一七四、〇七二、五〇〇
六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	三、一七四、〇七二、五〇〇	三、一七四、〇七二、五〇〇
六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	三、一七四、〇七二、五〇〇	三、一七四、〇七二、五〇〇
六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	六、三三九、〇四二、〇九三、二四三、五九三、八二二	三、一七四、〇七二、五〇〇	三、一七四、〇七二、五〇〇

往		復	
秋津浦發	丸尾崎	丸尾崎	秋津浦發
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

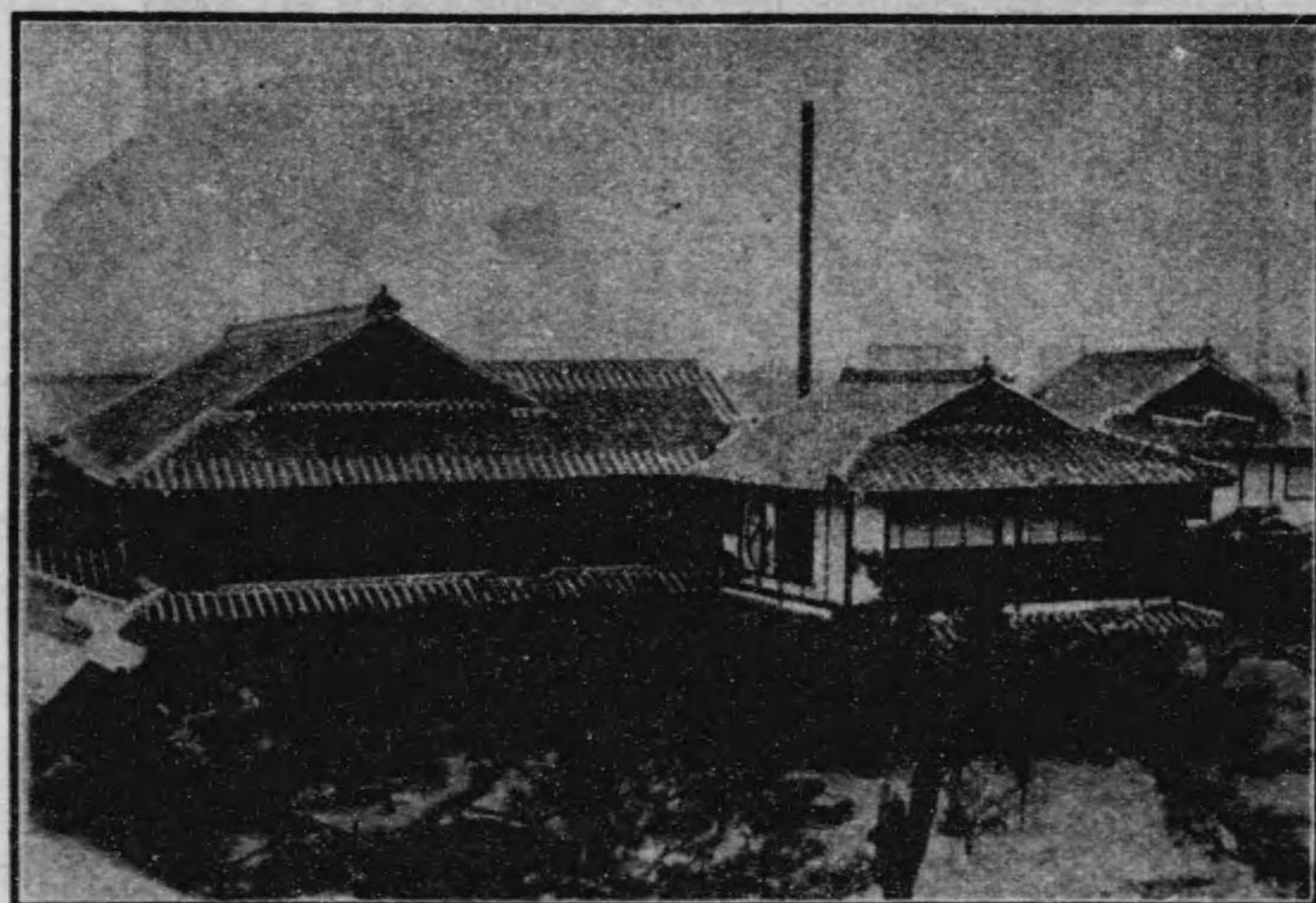
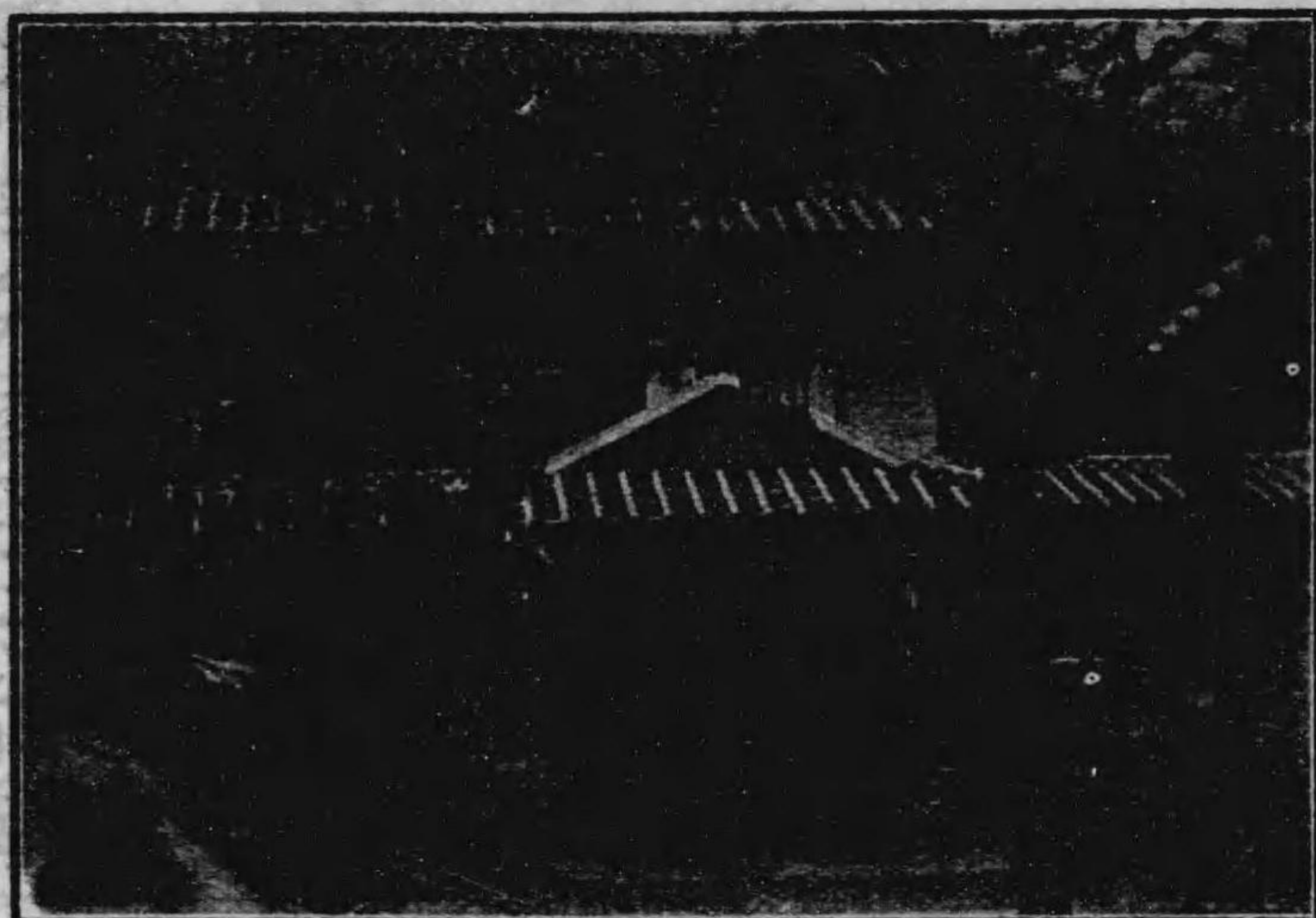
最新流行和洋雜貨小間物化粧品販賣



中山藤松商店
長門宇部東新川明治町一丁目

千歲舍

御旅館



電話二二二番

御旅館
御料理
玉突場
新川驛前
待合所

長門宇部東新川榮町

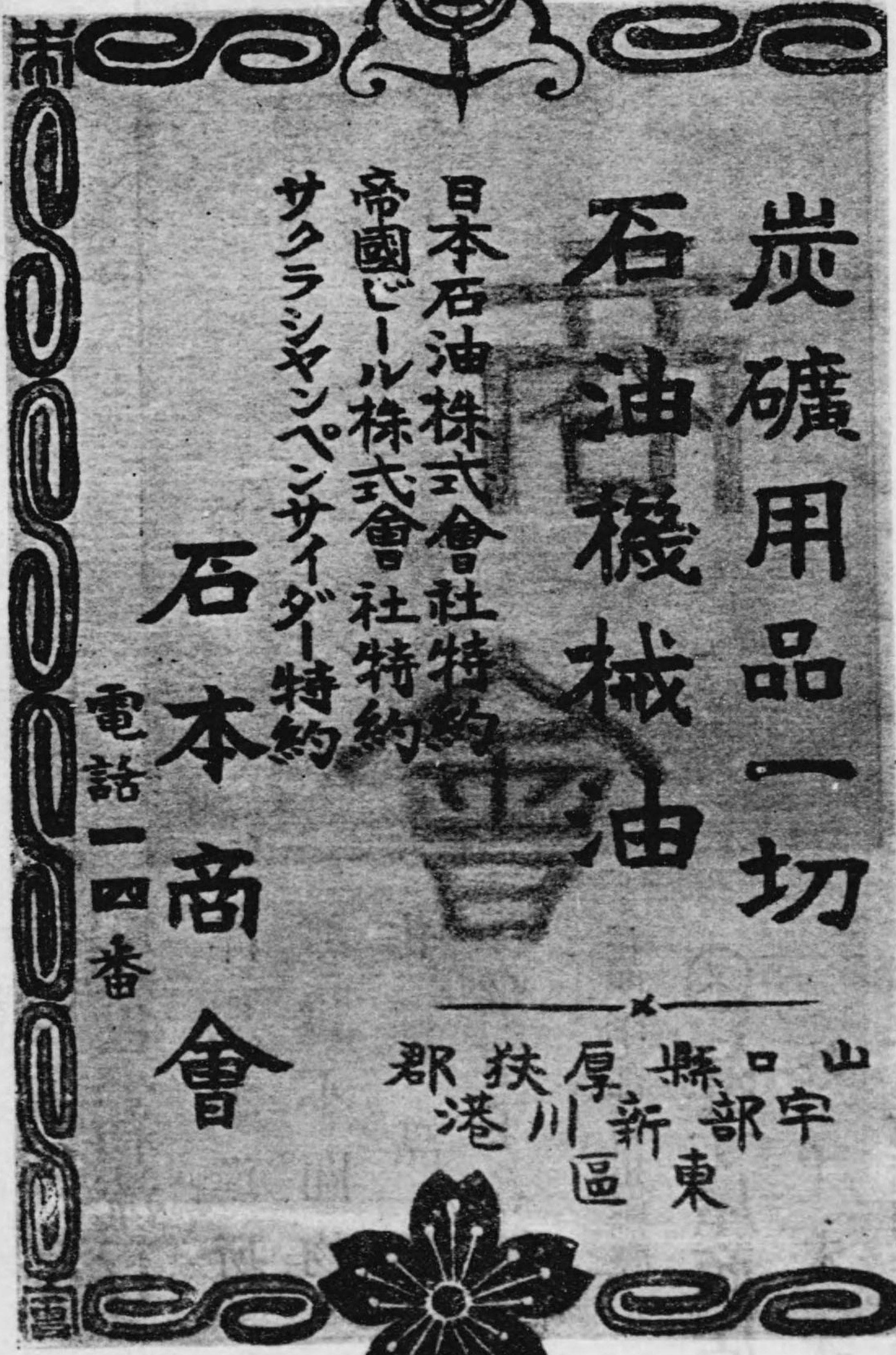
千歲舍

岡村旅館

岡村成次

電話二二二番

新川驛前
待合所
電話一三二番



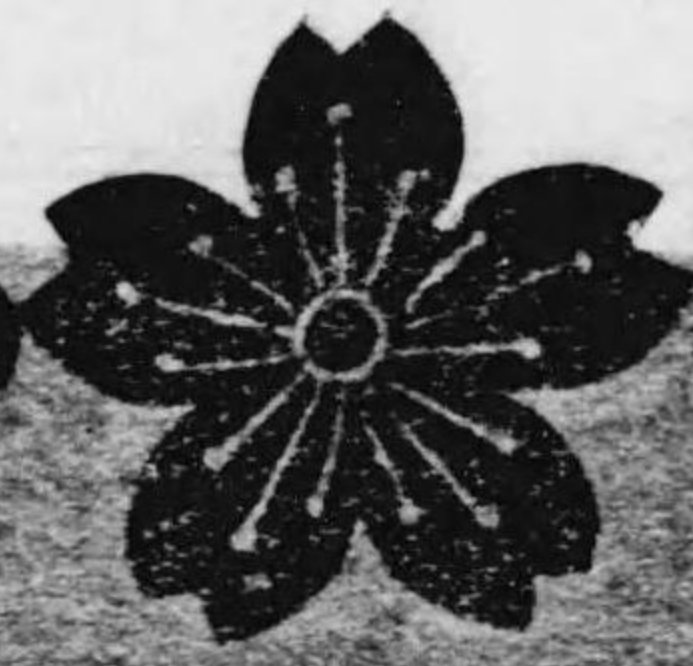
日本石油株式会社特約
帝國ビール株式会社特約
サクラビールペンサイダー特約

炭礦用品一切
石油機械油

石本商會

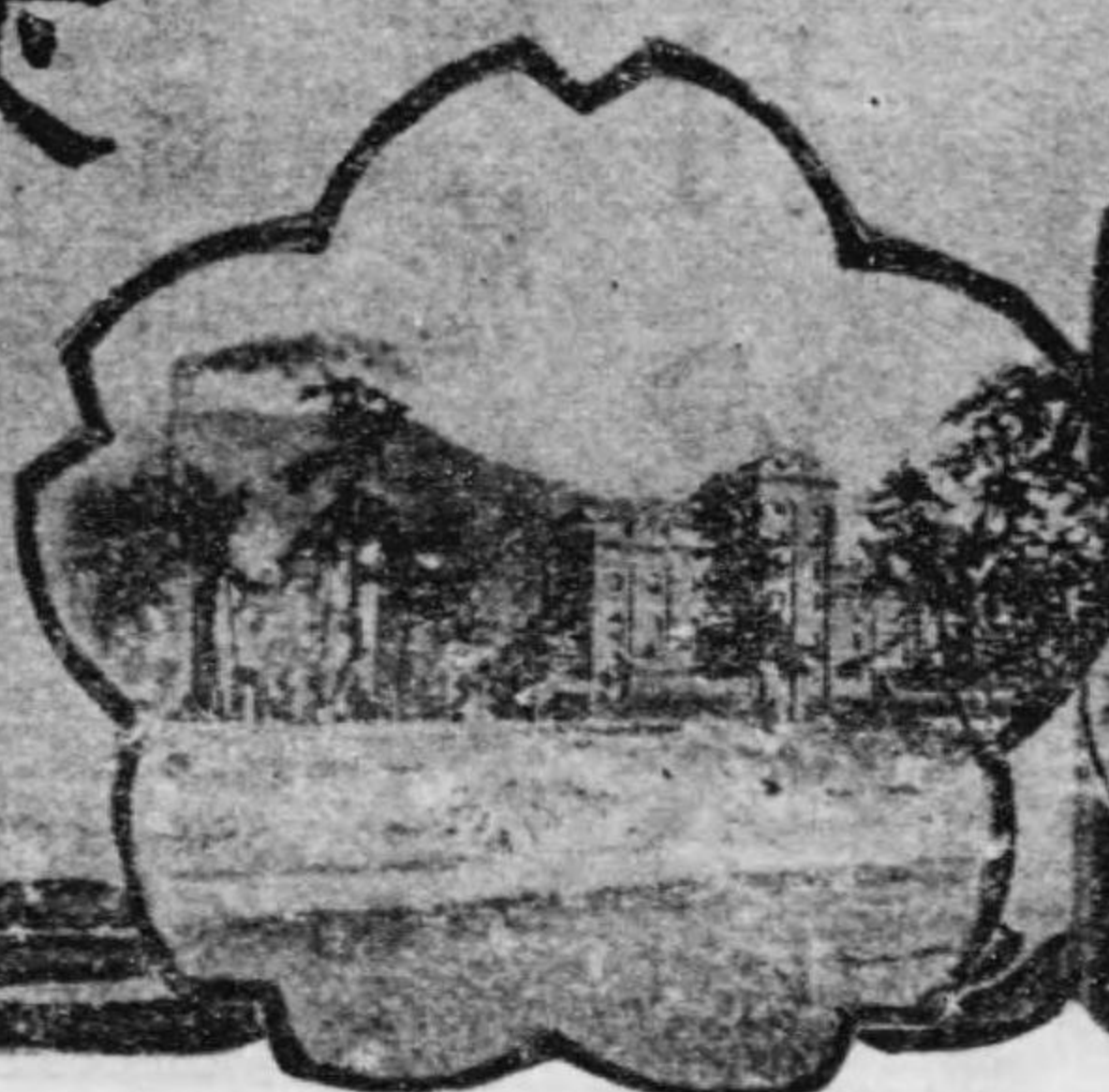
電話一四番

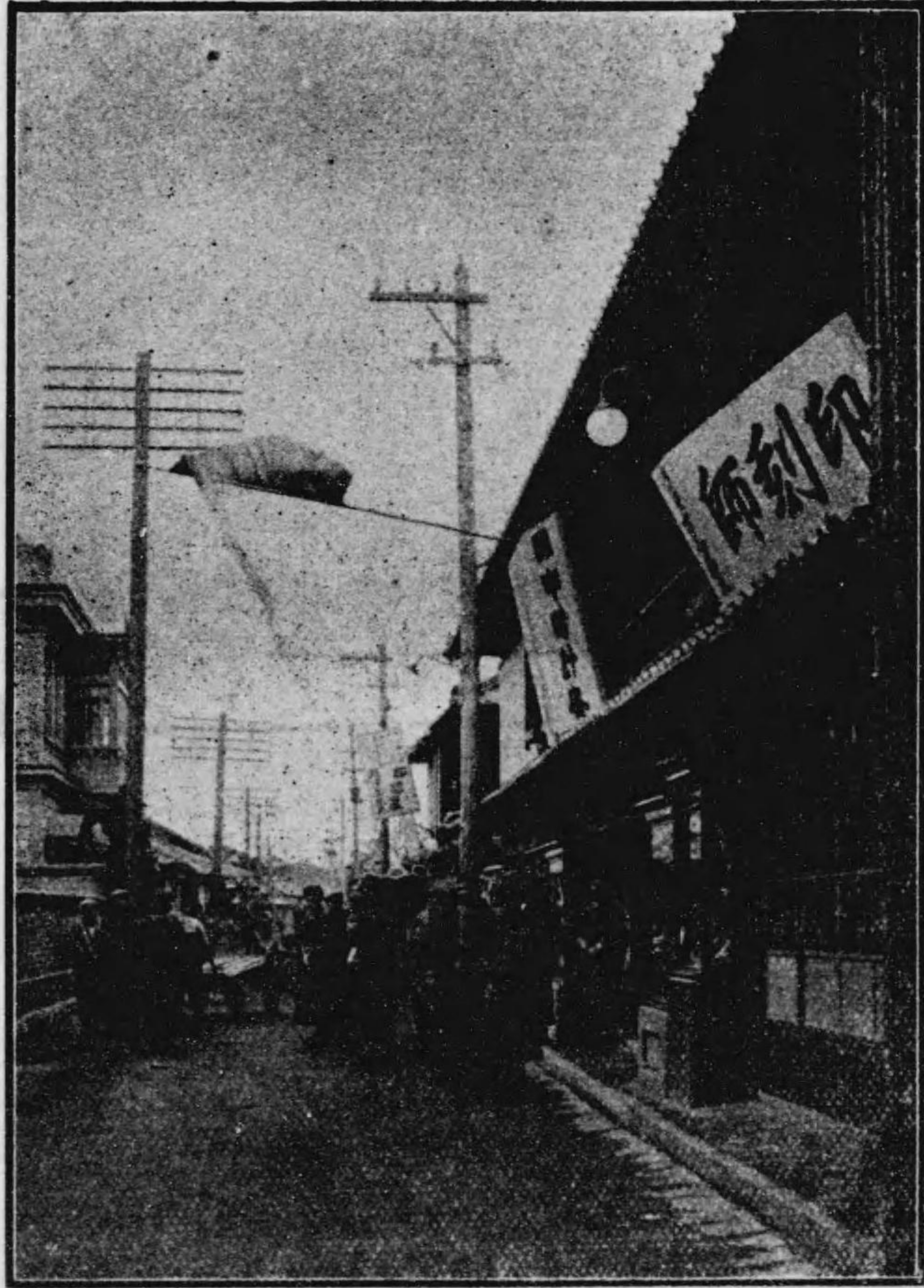
山口縣厚狹郡
宇部新川港
東區



サクラビール
サクラサイダー

新古金物
金物製作
工場用粉炭





通盤常川新東



舶來最新流行

洋服調進所
雜貨小間物
化粧品類
洋傘帽子各種

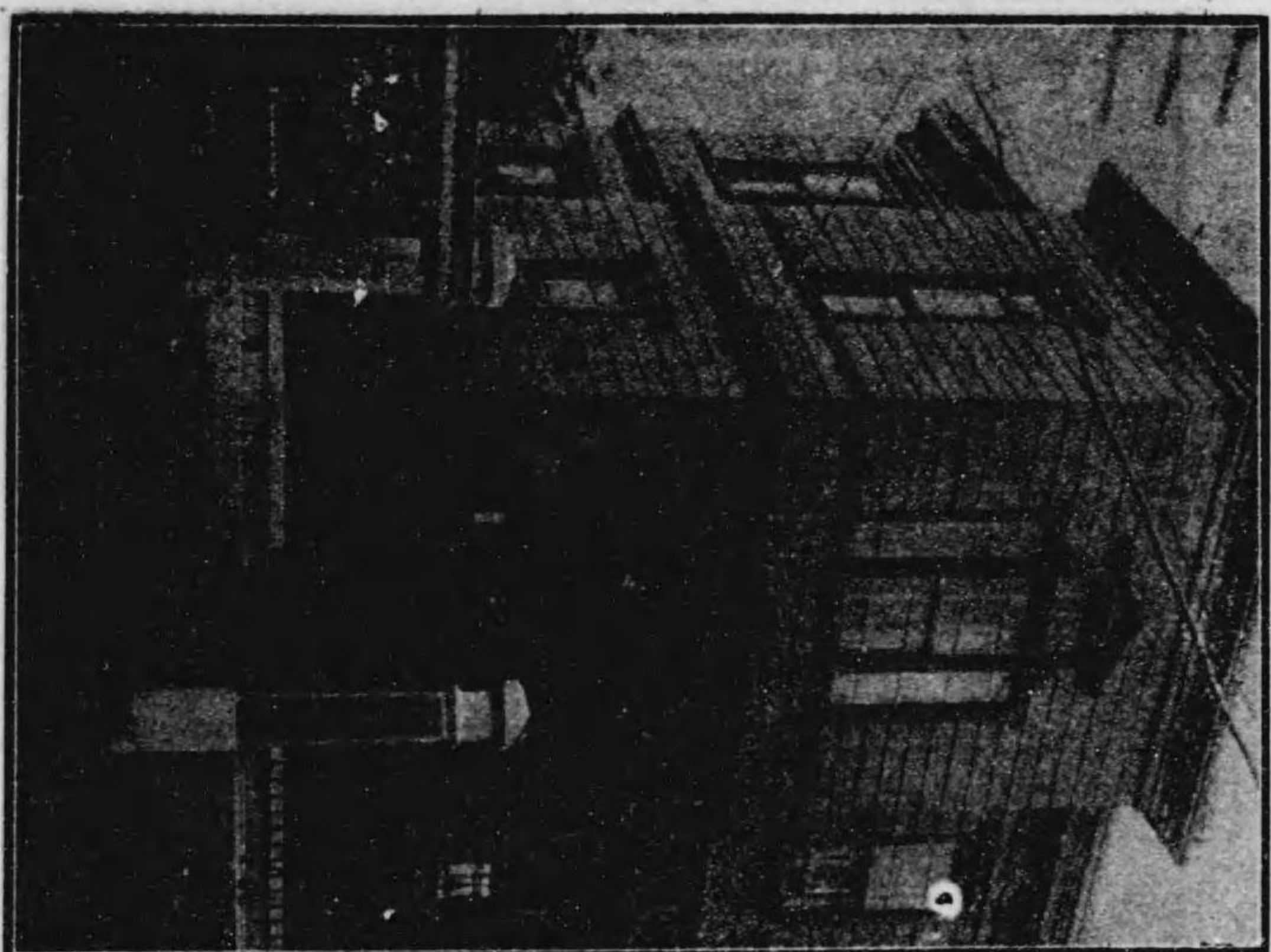
長門宇部新川橋際

② 蛭子屋商店

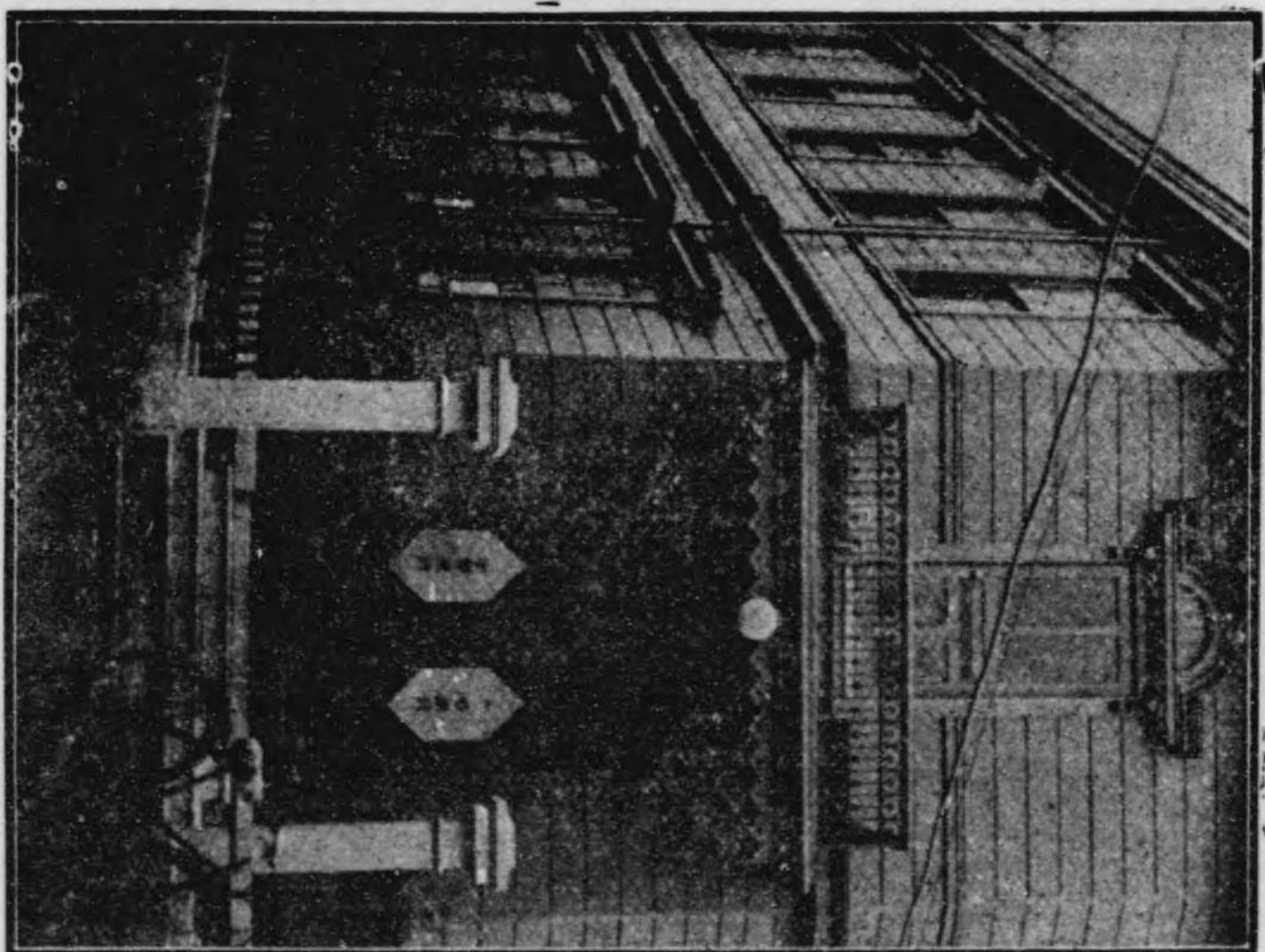
蛭子末次

電話四十二番

署 分 察 警 部 字



行 銀 部 字



西 新 川 本 町 通

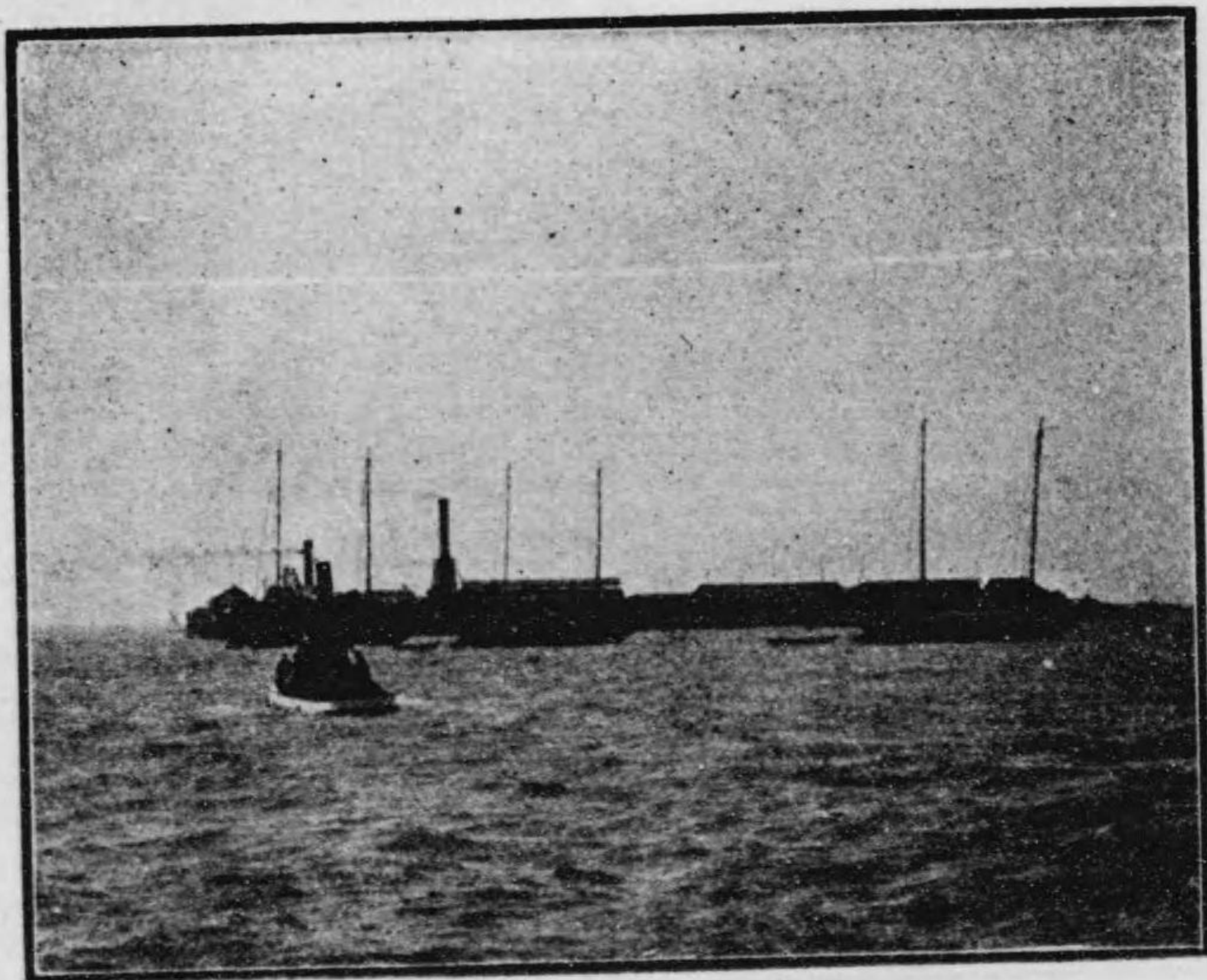


字 部 輕 鐵 會 社 新 川 停 車 場

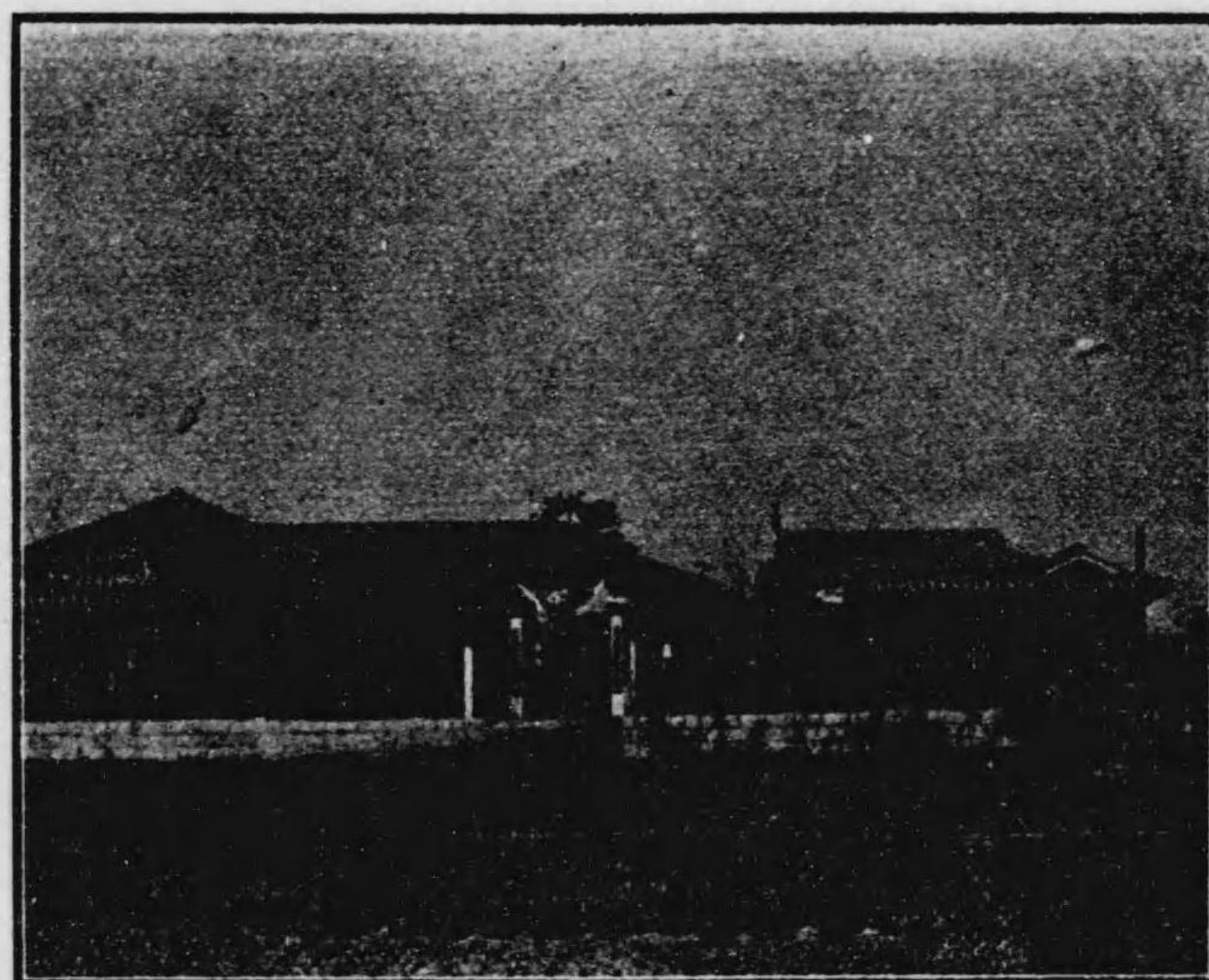




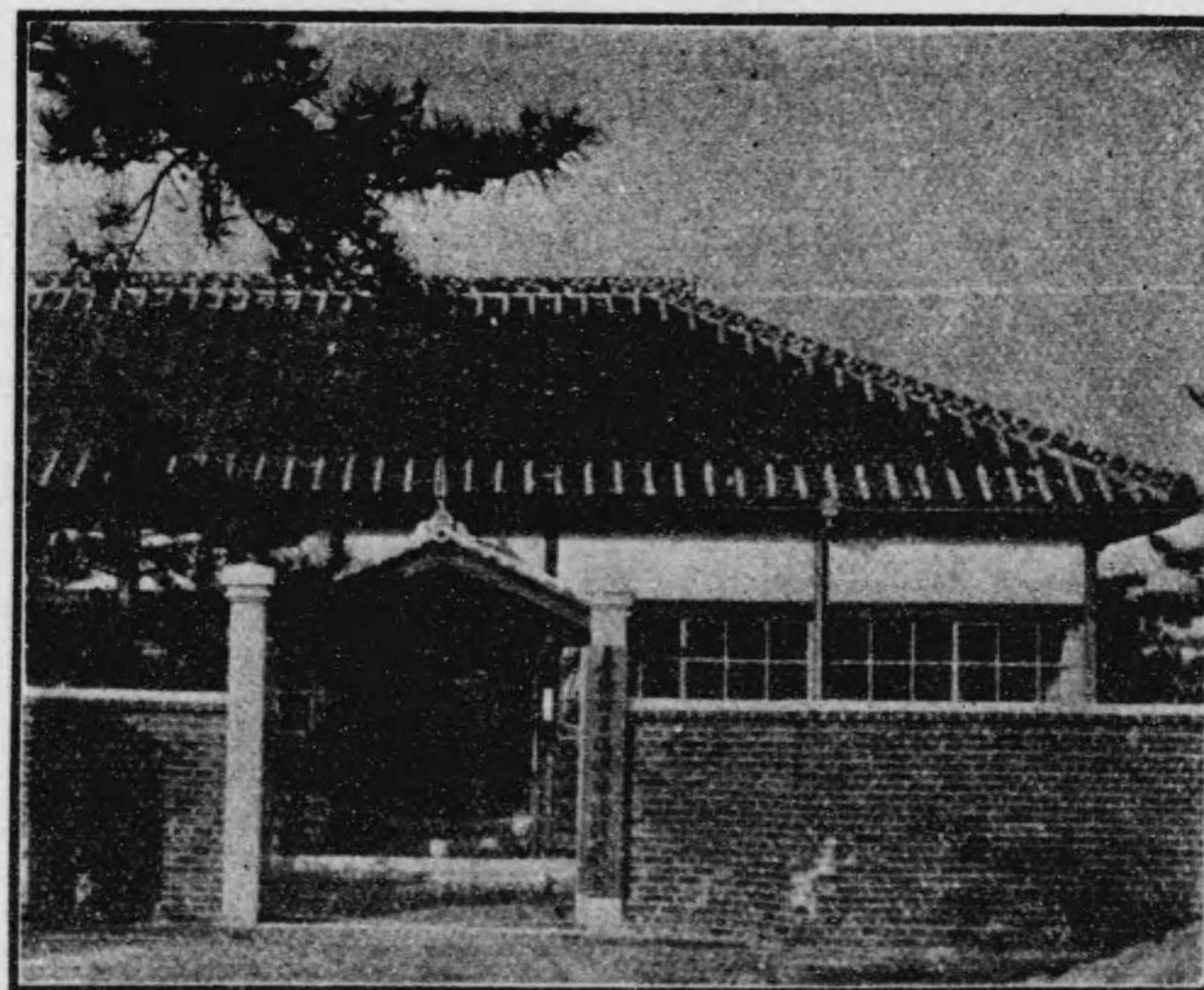
沖の山炭坑



潟炭坑

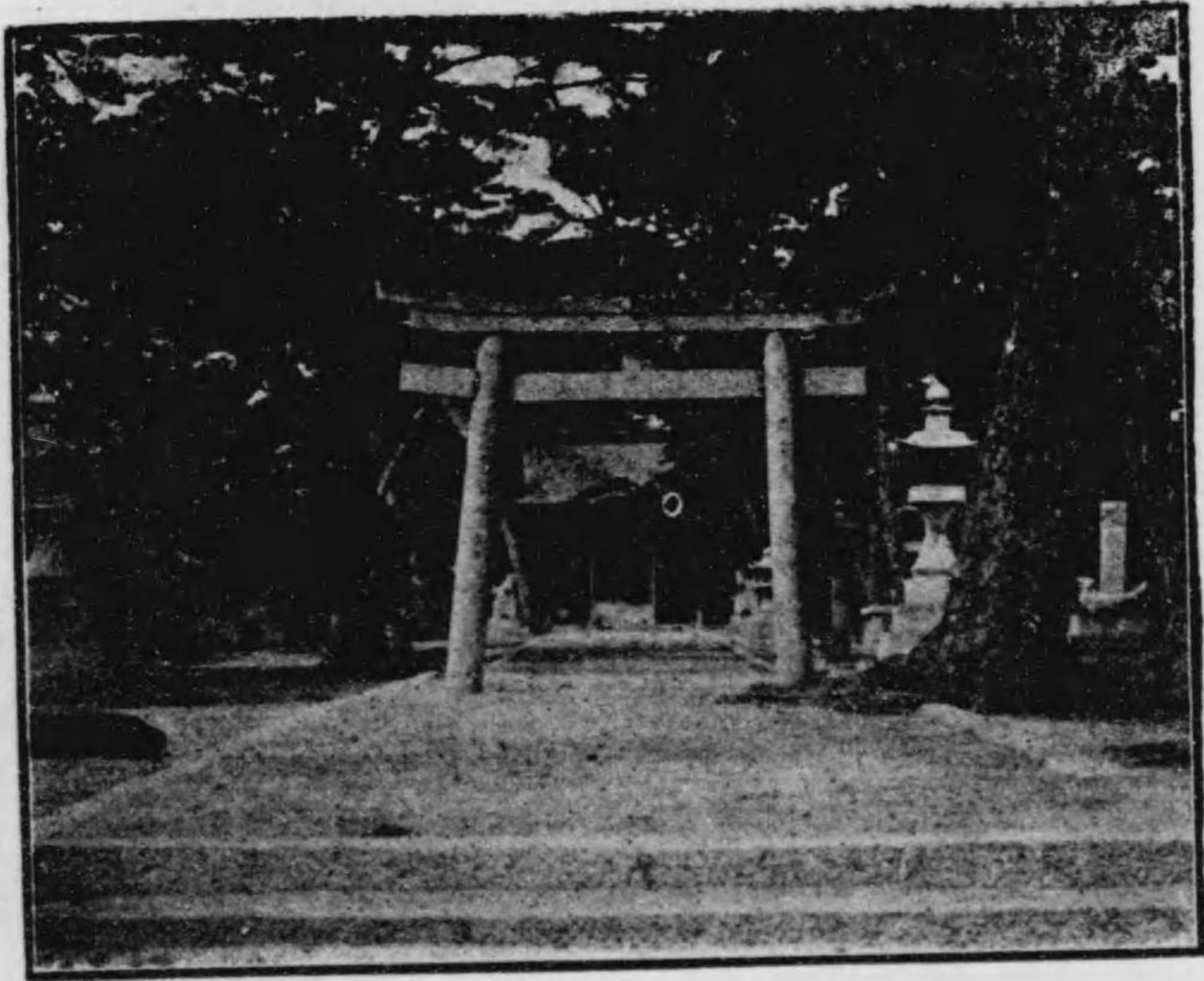


宇部村役場

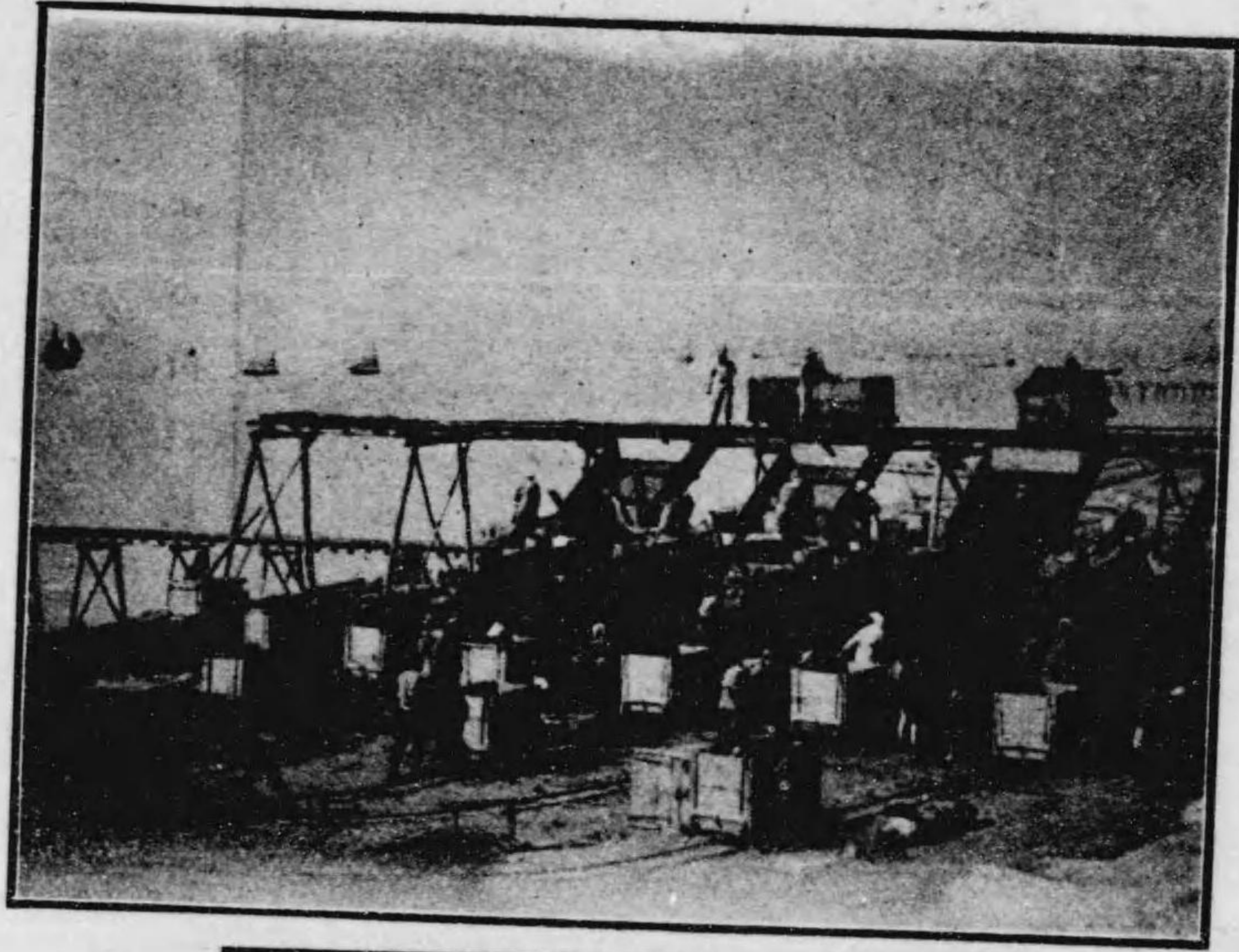


宇部隔離病舎

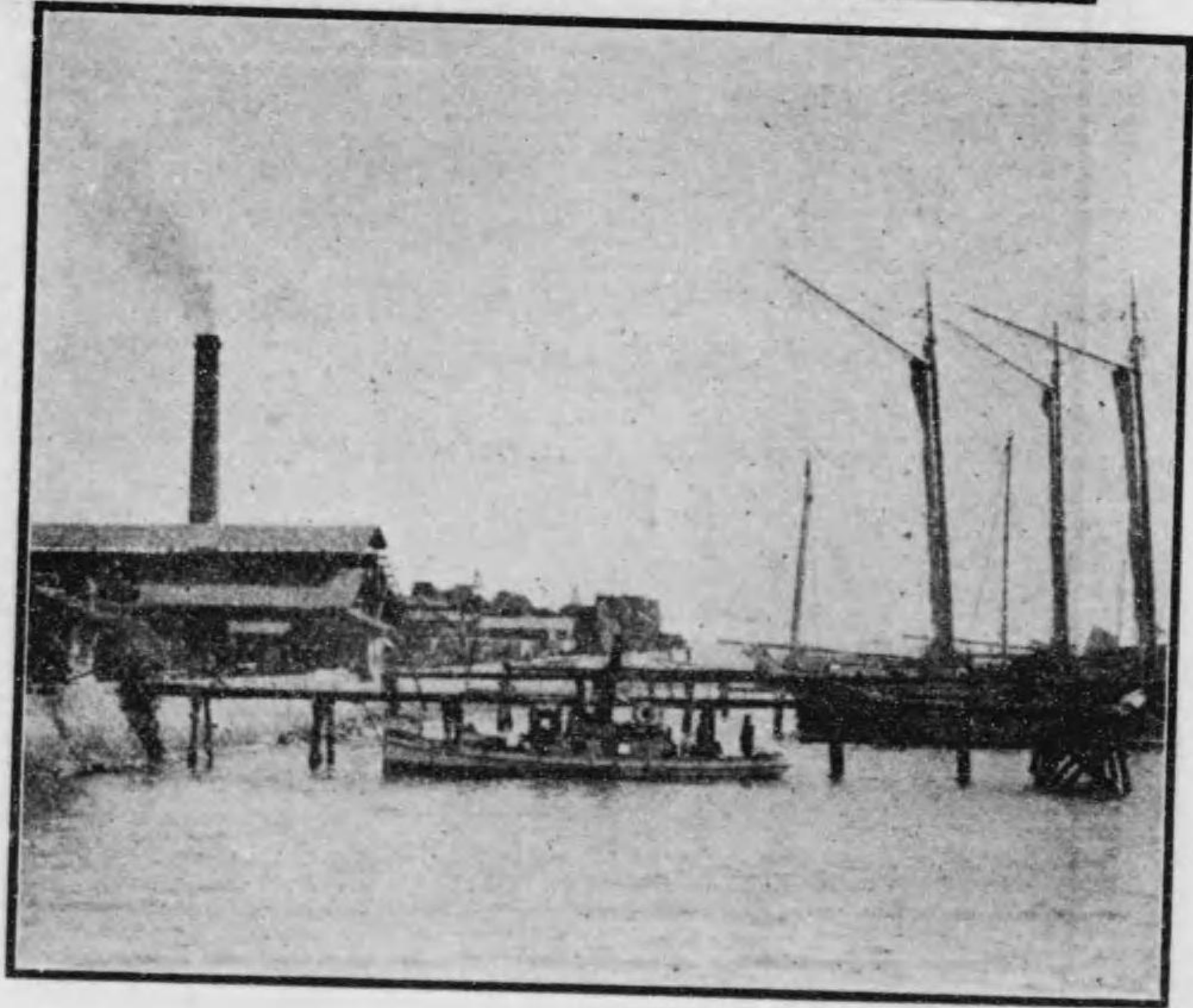
琴
崎
神
社



岬
神
社



炭
鑛
海
岸
(一)



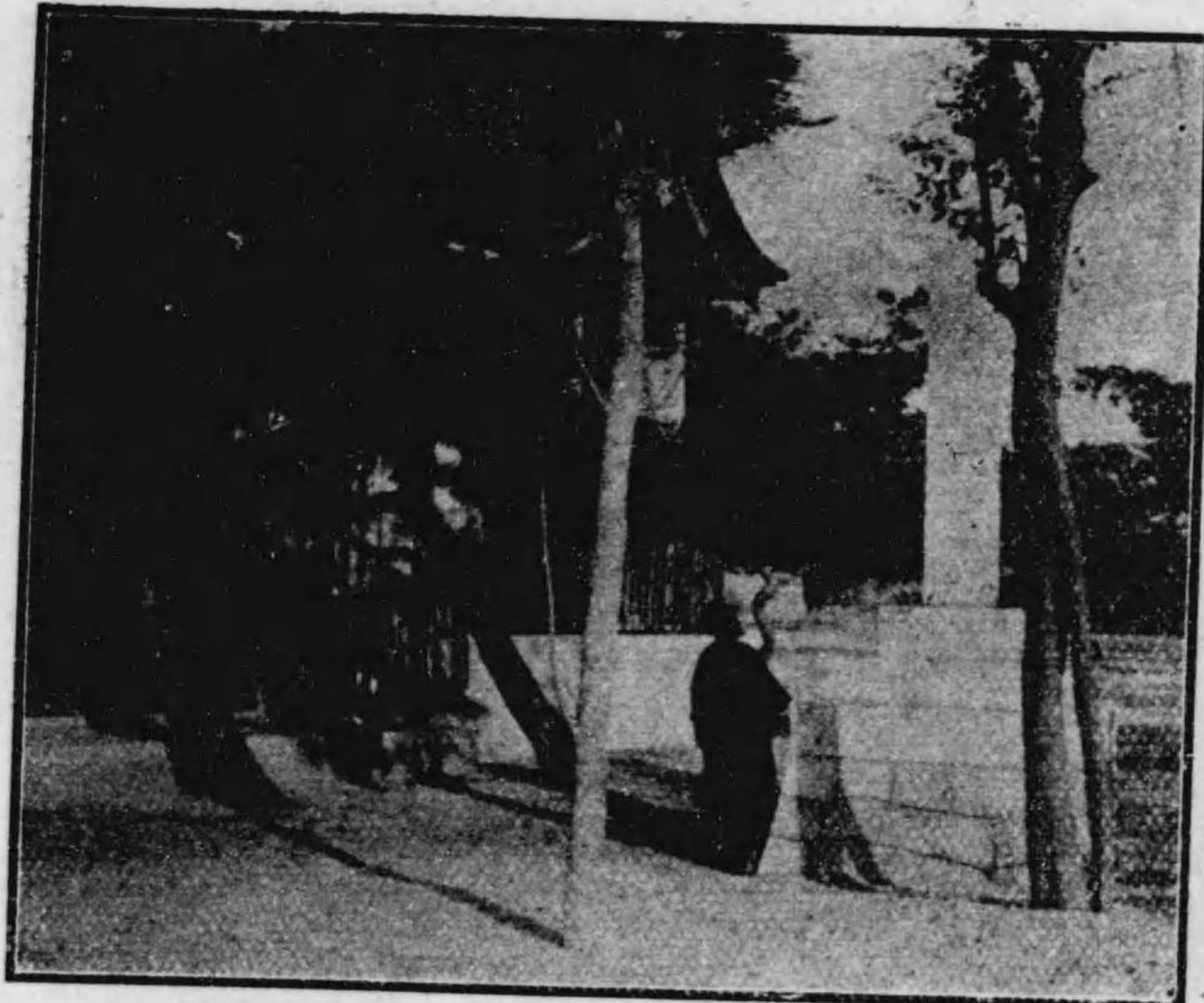
炭
鑛
海
岸
(二)



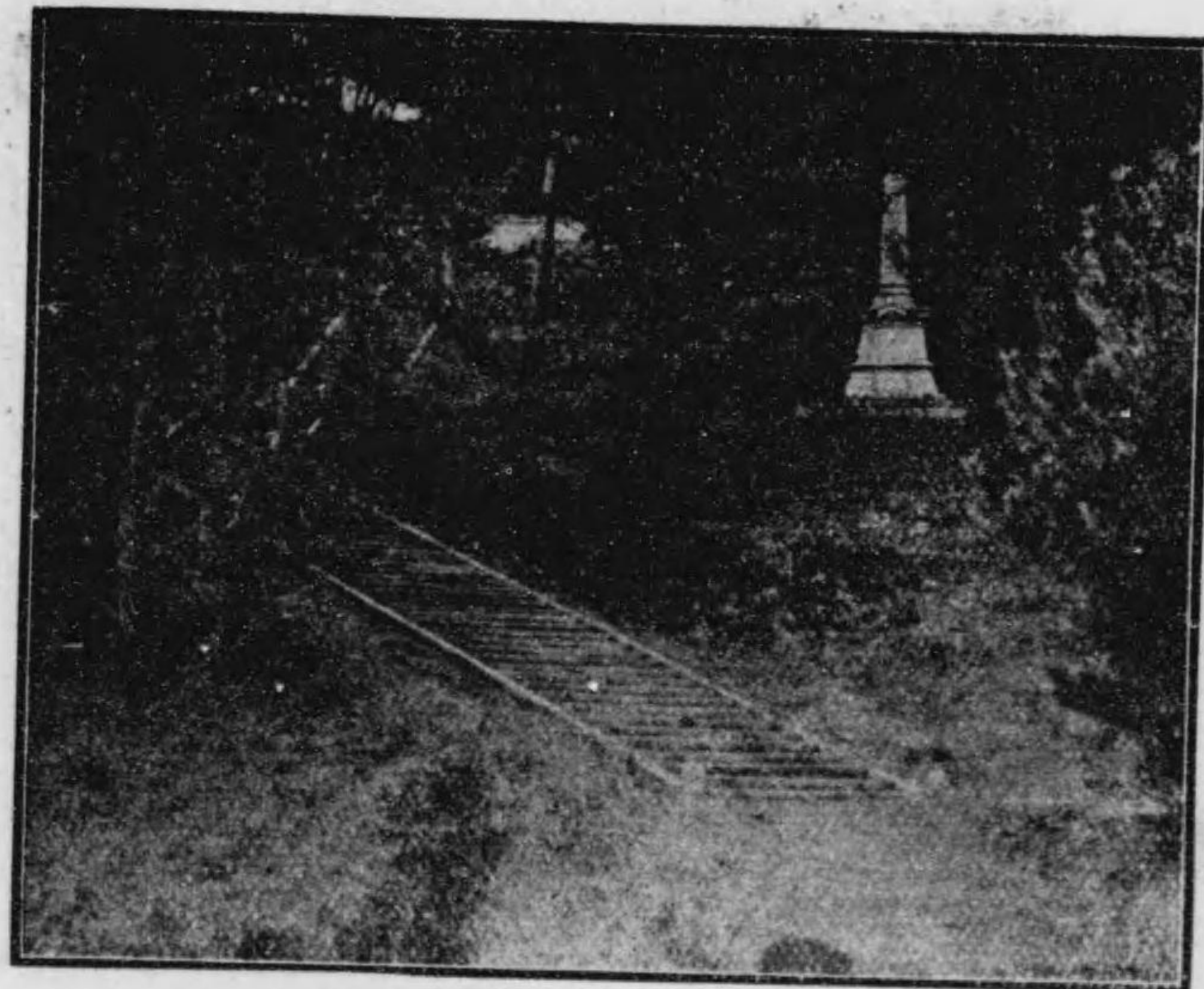
教
念
寺



宗
興
寺



水
神
社



維
新
社



常盤池

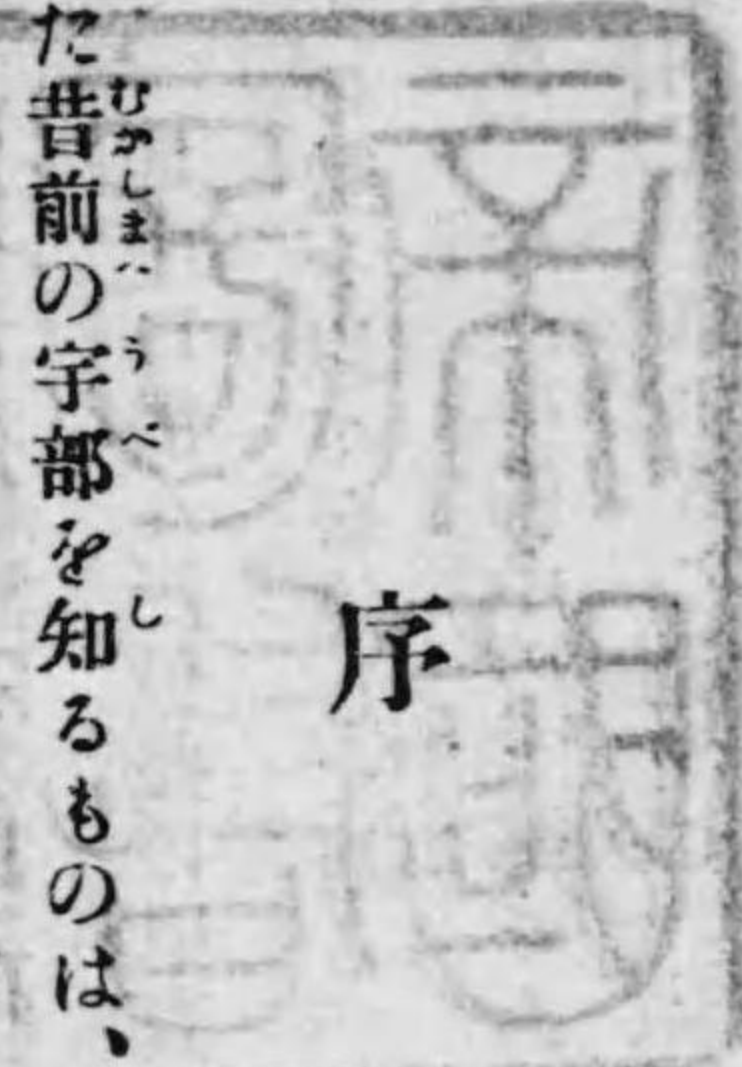


緑ヶ濱

宇部案内

長防出版會編

序説



ふた昔前の宇部を知るものは、現今の宇部を見てこの著しい進歩に驚嘆せぬ者はあるまい。回顧すれば夢の跡、白砂青松の磯濱邊に、寄せては返す荒波の音も寂しく、藻汐焼く海士の煙りさへ稀な、鷗や千鳥の飛かうに任せた、その邊陲の別天地が、今や山口縣内下關に次ぐ般繁の巷と化して、炭坑業の旺盛なこと中國に冠絶し、宇部の地名は東西に響渡り、出入の船舶は日に月に數を増し、岸に帆檣林をなし、埠頭に集散する荷客は常に絶えず、陸は街衢整然として東西に通じ、高厦壯樓は軒々櫛比して、郵便電信電話の設備は謂ふ迄もない、官線宇部驛よりは四哩餘の輕便鐵道を敷設して、輕轆の響勇ましく海陸の交通は意の如く、また十數個所の炭坑及會社工場の煙筒から、絶えず吐出す煤煙は天に漲り、瀛

宇部案内

大正
3. 5. 20
内交

笛の音は港外にまで鳴渡りて、其繁盛なこと、今は昔を忍ぶ係どてはない、併し本村側は依然農業本意で、春畑秋圃の農繁期には、収穫の豊饒に忙がはしく、農事の進歩も決して昔に勝ることも劣らないが、近時鑛業の發達に伴つて、大概は半農半鑛を業とする様になつた、けれども農事は決して等閑に付されることなく、年々改良され或は耕地を整理し産業を奨励し、土木を起し、道路橋梁を修理改造して、増々面目を施しつゝある。如斯現今の宇部は殆んど自然的に、譬へば陽春草木の萌ゆるが様に發達した、そして一方に大なる耕作地によつて春秋無限の富を收め、尙ほ一方に荒蕪何の用もなさぬ、新川の砂原を開鑿して、地中に潜んだ億兆の財寶を採掘し、農鑛相俟つて宇部繁榮の基礎をなし、尙ほ日進月歩の勢を以て發達して居る。必ず近き將來に於て、町制を敷き、更に進んで市制に改むべき、今は準備中の宇部である、單に村と謂へば、僻寒の片ほとりも村である、この宇部案内記を草するに當つて、編者は人口二萬餘を有する都會を一つの村として、是を世に紹介するに忍びないのである。

扱宇部案内記を叙する順序として、宇部の地理と歴史を簡略に述べなければならぬ、先づ

海路より宇部に入らんとするには、下關を起点とするが至便である。

下關港を出帆して、一葦の海水を隔て、豊山呼べば將に應んとする、早瀬海峡の急潮を東に乘切ること僅かに十二哩餘り、細長く海上に突出した長州本山岬の頭角を廻つて、楫を左に取ると直ちに新川港に着するのである。

南方遙かに指さす處は、洋々たる周防灘に面して、煙波の彼方に糶糊として認むるは、四國伊豫の山影である、豊後海峡を隔て、西南に筑豊の諸山が翠黛を顯はして微笑むが如くに見ゆる。遠く沖合を往來する白帆が東南の突出した山の端に鷗のやうに隠見する處が周防秋穂浦である。新川より秋穂行の漁船は毎日一回往復して旅客荷物の運送の便を計つて居る。

若し陸路をとつて宇部に行くならば、山陽線宇部驛から輕便鐵道に乗換へて、僅かに四哩餘、彼の有名な厚東川の長橋を渡ると間もなく新川驛に着するのである。

宇部は厚狹郡の最南部に當り長門の國の東南端に位して、北東は周防の國吉敷郡西岐波村に境し、西北は厚狹郡山村に隣して居る。

宇部附近海岸の地質は總て白砂である、今を去る凡五六百年前迄はこの附近一面の海であつたが、寄せては返す周防灘の荒波に、打あげられ押寄せられて洗ひ洒らされた海底の土砂が、幾百の霜を経て星移り物變り、終に蒼海變じて陸地となつた、そして峯より吹風す山風が松の木の実を吹混せて砂地に種を蒔いたのが、いつしか白砂青松の濱邊となつたのであらう、又一説によると數百年前周防灘に大海嘯が起つて、一夜の内に宇部岬から藤山村居能あたりにかけて、厚東川から流出して海底に堆積して居た土砂を打揚げた爲め、陸地に變じたとも云ふ、或はこの説が事實かも知れぬ、いづれにしても數百年前は此附近は一面の海で、隣村藤山村藤曲、厚南村厚東川の上流から宇部村小串、琴崎、琴芝、梶返あたりは長汀曲浦の浪打際であつた、現今宇部の島と稱する所は、その昔、沖合の離れ小嶋で、新川、居能附近は一面の青海原であつた事は明らかである。

昔は厚東郡宇部郷と謂ひ、皇極帝の御宇物部守屋の子、防長二州の間に流罪されて長門國厚東郡に住んだ、これを鹽小路中將武忠と謂ひ、其子武基は大化三年に赦されて上洛し、厚東太夫と名乗つてより其子孫世々厚東を氏として長門國南部の豪族であつた、厚東第七

世武光の代に至つて厚東の郡司となり、初めて霜降城を築き代々此處に城居し、其後十四代武實の時建武元年長門守護職を賜はりしも、十七代義武となつて一家不和にて治まらず従つて人民その塔に安せず、遂に延文三年大内弘世の爲めに討れて霜降城は陥落した、この霜降城の在つた舊跡は宇部の北東に當る凡そ二里餘の厚東村にあるので、その時代宇部は厚東家の司配を受けて居たことは勿論、今は跡形もないが宇部川津に厚東第三世武道が川津寺を建立し、また第八世武景は西の宮八幡宮を建立したと言傳へて居る。厚東家滅亡して大内氏防長の守護職となつて間もなく、世は刈菰と亂れて諸國の豪族は互に覇を争ふ戦國時代となつた、其後大内氏滅して毛利氏守護職となり、豊臣時代を経て徳川の世に移り幕府の政を布き、各所に大名を分置する制度となつて、毛利家は防長藝二ヶ國の大名であつた、毛利家の老臣で名高い福原氏は、宇部村宇大小路に居を構へて碌壹萬石を領する宇部の邑主であつた、其後王政復古となり廢藩置縣後、山口縣厚狹郡宇部村と改稱さるゝに至つたのである。

人口戸數面積 (大正二年末調)

人口

男壹萬壹千五百五拾五人 女九千參百九拾壹人 内本籍者壹萬參千六百五人

戸數

五千參百〇九戸 内本籍 貳千八百壹戸 此の内 華族 戸數 壹 士族 戸數 百五拾壹戸 平民 戸數 貳千六百四拾九戸

面積

貳千八百四拾六町五反 東西壹里拾七町四拾六間 南北貳里拾貳町五拾間 有租地貳千四拾四町五反六畝九步 内 宅地壹千貳百四拾七反四畝貳拾七步 田地八千六百四拾貳反貳畝拾七步 畑地四千參百六拾壹反貳拾九步 池沼五反壹畝拾八步 山林六千壹百貳拾貳反九畝貳步

陸海軍兵籍者

原野六拾參反九畝拾八步 雜地貳反七畝貳拾壹步 外ニ埋築地(大正三年三月調) 小串 沖の山沖(海面埋立)八町八反八畝貳拾五步(大正三年六月竣成) 全 百五拾七町四反六畝貳拾參步(工事中) 中宇部 沖の山沖 全 五町參反壹畝拾七步(工事中) 全 五町八反壹畝拾壹步(出願中) 全 貳町五反壹畝拾五步(出願中)

宇部村内陸海軍在兵籍者は、總員七百七拾五名で、この内

陸軍現役將校四名、下士三名、兵卒九十一名、豫備役將校七名、下士十二名、兵卒百二十三名、後備役將校八名、下士十四名、兵卒九十九名、補充兵役三百七十五名、海軍現役將校二名、下士八名、兵卒十二名、豫備役兵卒十名、後備役兵卒七名

新川の市街

新川橋を中心にして東西の二區に分ち東を東新川、西を西新川と稱す。

東新川

本町

新川橋を東に渡ると直ぐ本町一丁目である、巖めしい洋風建ての宇部警察署と宏壯見上ぐる様な宇部銀行が第一番に目に付く、其所を右に曲つて海岸の方へ下り、二丁目三丁目四、五、六丁目まである、各丁とも大商店が軒を並べて商業盛んな町筋である。

常盤通

新川橋を渡つて宇部銀行と警察署との間を真直ぐに東へ通じた町で、宇部寫真俱樂部の建物を初め、孰れも新築の家屋軒を並べて街區整然として、賑やかなこと新川第一の通りである。

緑町

本町一丁目と二丁目間は屈曲して鍵の手の様になつて居る、そこから東に通じた町が緑町で、一丁目から三丁目迄あつて、新川遊廓老松町に通ぶ

榮町

町筋で相當に賑やかである。
緑町一丁目と二丁目間を南北に通する町筋で、南は本町三丁目、北は松ケ枝町に續いて、町の中央に旅館千歳舎がある、新川一の大旅館で土地の紳士紳商が遠來の賓客を待遇するのは大概此旅館である。

松ケ枝町

水神町

琴芝通

常盤通りと緑町との中間を、本町一丁目から東へ一直線に通する町筋。
本町一丁目の裏通りに當つて、北は松ケ枝町を抜けて常盤通りに出で、南は本町三丁目に通じ榮町の裏通りにも當る。
本村字琴芝に通する榮町の裏通りに當つて、南は本町四丁目劇場場縁座前に出る町筋。

宮地町

老松町

寶町

緑町三丁目角から本町四丁目と五丁目間へ南北に通する町筋で、此の通りに新川商業集會所がある。
新川遊廓内を老松町と云ふ。
榮町一丁目から琴芝通に通する緑町二丁目の裏筋。

●明治町 ●本町六丁目から先が明治町で、此附近を一名五反田とも云ふ、見初、東見初から岬に通ずる町筋である。

●見初 ●東新川の町はすれで、明治町の東に當り見初炭坑のある處、炭坑労働者を得意とする商人が店舗をならべて仲々賑やかである。

西新川

●新町通 ●新川橋を西に渡つてから真直ぐに四五町の間を、突當るまでの通りが新町通りである、新川橋附近が一番賑やかで大商店が軒を並べて、西新川の客足を此處に吸集して居る。

●朝日町 ●橋を渡つて新町通りの取付きの四ツ角を南北に通ずる町が朝日町で、町の北端に宇部電気株式会社がある、また町の南に郵便電信局がある。

●本町 ●橋を渡つて新町朝日町の四ツ角を左に折れて、宇部郵便局の前を右に曲り一直線に西へ通ずる廣い町筋が本町通りで、東から始めて一丁目二丁目三丁目迄ある、この町筋が西新川第一の繁華な通りで町の体裁もよく整ふ

て居る、町の中央南側に和洋折衷建ての植田貞太郎氏邸がある、屋上に聳いた宏壯な三層閣は本町通りの偉觀である。

三炭町

●三炭町 ●本町四丁目の終りから續く町が三炭町である、舊三炭組炭坑の物興に伴うて出来た町で、去る明治四十四年三月三炭組炭坑罹災後俄に此町は寂れて町民等は近く全炭坑の再興さるるを樂んで景氣挽回を鶴首して居る。

●海岸通 ●本町通りの裏筋で、沖の山炭坑構外の片側町である、炭坑労働者を得意とする小商人が軒を並べて仲々賑やかである。

●北町 ●新町と朝日町の四ツ角を右に曲つて、朝日町を凡そ半町程行くと左に折れて這入る狭い通りが北町で、東西に長く通つて西端は三炭町迄續いて居る

●上町 ●北町の北へ半丁餘り上ると、東西に通ずる新しい町が上町で、宇部輕便鐵道會社及び停車場、濟美女學校、幼稚園、新川小學校、國重病院等が此町にある。

●堅小路 ●本町一丁目と二丁目の間を北へ、真直ぐに宇部輕便鐵道の停車場へ行く通

りが堅小路である。

相生町 新川座前を真直ぐに東へ通ずる町。

仲町 新川座前を南北に通ずる町筋で、北は上町へ、南は北町を抜けて新町の端から本町二丁目へ出る。

寺町 本町一丁目の西端から北へ真直ぐに曹洞宗光善寺へ突さあたる迄の町筋。

以上は重なる町を列記したので、まだ此の外東西新川に幾多の町名はあるが、孰れも町として紹介するに足らぬ、前記の町名で案内は充分である。

人口壹萬五千餘と戸數三千餘を有する新川も、乍遺憾、今では、まだ村の小字で、即ち東新川は宇部村大字中宇部、西新川は大字小串が實際の地名である。

新川橋より各所へ

宇部驛迄

一里二十九丁

居能榮橋迄

十八丁

沖宇部之部

梶	返	十五丁	芝	中	十六丁	清	永	崎	十七丁
見	加	十八丁	名	切	二十一丁	恩	田	二十	二十二丁
沖	山	二十四丁	笹	山	二十五丁	長	澤	二十六	二十六丁
見	内	二十七丁	野	原	二十九丁	岬	江	三十	三十丁
五	目	三十一丁	八	王	三十二丁	草	浦	三十三	三十三丁
則	貞	三十四丁	野	中	三十五丁	龜	浦	一里	八丁

小串之部

嶋	十	丁	濱	沖	十二丁	崩	二十	十六丁	
鵜	十六	丁	小	串	二十二丁	開	立	三十一	丁
下	條	十七丁	蟻	ヶ	追	二十丁			

上宇部之部

沼	二十	二丁	丹	太	郎	二十	六丁	鼓	二十	八丁
中	尾	深	原	三	十	一丁	山	門	三十	三丁
友	田	三	十	六丁						

宇部案内

十三

板根	二十五丁	大小路	二十七丁	中尾	二十七丁
上山	三十一丁	廣田	三十五丁	開	一里九丁
川上	一里十八丁	西山	一里九丁	中吉原	一里十八丁

中宇部之部

種口	八丁	新堀	七丁	沖の山	十三丁
常藤	十丁	西山	十六丁	琴芝	十二丁
京納	二十丁	鎌田	二十丁	維新	二十四丁
中村	二十二丁	南鳴水	三十一丁	川津	二十五丁
燒米	一里九丁				

財政及教育

宇部村の經濟狀態の概要は、村基本財産の主なるものが蓄積金、壹萬六千九百五拾貳圓五錢壹厘、有價証券八千貳百五拾圓合計貳萬五千貳百貳圓五錢壹厘及び不動産(土地建物等)である、而してこの財産から得るところの収入は、大正二年度豫算に依ると、壹千參百四拾八圓七拾八錢五厘、次に別途の収入では使用料及手数料が一千九拾六圓參拾錢、國稅縣稅徵收交付金が壹千貳百八拾五圓六拾六錢五厘、納付金が壹千參百參拾圓、雜収入が四百四拾四圓、村稅が參萬壹千六百七拾壹圓參拾參錢、之れに前年度繰越金四千圓を合して經常部の歳入豫算額は四萬壹千壹百七拾六圓八錢である、尙ほ臨時部歳入豫算は縣補助金(傳染病豫防費補助)八百參拾四圓八拾四錢、郡補助金(治療費補助)八拾圓、次に本年度は小學校舎増築道路改修及下水溝新設等の事業を起したので、この費用の幾分を補ふ爲め指定寄附による寄附金の收入(豫算)額が壹萬五千四百九拾圓で、合計壹萬六千四百四圓八拾四錢、以上の經常、臨時を合せた歳入總額は五萬七千五百八拾圓九拾貳錢といふ巨額で

ある、而して此の歳入は如何なる方面に支出せられるかといふに、役場費として六千五百參拾五圓八拾參錢、會議費として壹百八拾九圓七拾錢、土木費として六百九拾六圓七拾貳錢、教育費として壹萬參千貳百六拾九圓七拾參錢、傳染病豫防費として九百貳拾貳圓九拾錢、隔離病舎費として壹百貳拾八圓五拾錢、汚物掃除費として拾七圓、勸業費として壹百拾七圓、救助費として七圓拾壹錢、警備費として五百參拾參圓五拾錢、基本財産造成費として壹千五百六拾四圓六拾壹錢五厘、財産管理及保存費として七拾七圓、諸税及負擔として貳千五百七拾六圓四拾八錢九厘、公金取扱費として貳圓貳拾錢、豫備費として參百五拾九圓六拾貳錢六厘、以上は經常部の支出で、臨時部の支出は土木費として貳萬壹千七百圓、小學校營繕費として參千壹百圓、女子實業補習學校營繕費として壹千七百圓、傳染病豫防費として貳千參百參拾圓、勸業諸費として貳百貳拾參圓、勸業、青年會、納税貯金組合等補助費として壹千五百參拾圓、計參萬五百八拾參圓、經常臨時を合せて即ち總額五萬七千五百八拾圓九拾貳錢が一個年間に支出せられるのである、以上の中で最高額の支出は土木費で經常臨時を合せた總額の四割強に當つてゐる、これに徴して見ても現時宇部は土

木事業に留意し、時勢の進歩に伴ふ諸般を設備の整へつゝある事が想像される、次に教育費に於て、經常部の壹萬參千貳百六拾九圓七拾參錢と、臨時部の小學校建築及修繕費が貳千九百九拾圓に、女子實業學校建築費が壹千七百圓、計壹萬八千六拾九圓七拾參錢といふ莫大な教育費を一箇年間に支出して如何に宇部が獎學に熱心して居るかが窺はれる。村立宇部尋常高等小學校及村立新川尋常小學校の外に、沖の山炭坑構内に私立沖の山炭坑家庭學校がある、尙女子教育として大正二年四月に開校された私立濟美女學校、女子實業補習學校及隣村藤山村に私立香川女學校がある。また大正三年四月一日から西新川海岸に宇部徒弟學校が開校された、此外私立新川幼稚園も早くから設立されてゐる。現在村立宇部尋常高等小學校及村立新川小學校の就學兒童數は高等科二百二十六名、尋常科(宇部小學)一千三百十八名(新川小學)八百八名、總計二千三百五十二名の多數を教育して居る

(大正三年三月調)

諸税負擔及納税組合

宇部村民が一箇年間に國稅、縣稅、村稅を合せた負擔總額は、大正二年末の調査によると(徵稅調定額)金八萬五千八百參拾貳圓九拾錢五厘これを稅別すると

- 國稅 參萬七千參百拾五圓五拾五錢五厘
- 縣稅 壹萬參千六百七拾五圓參拾四錢五厘
- 全隨時稅 壹千八百四拾壹圓六拾九錢
- 村稅 參萬參千八拾圓六拾七錢五厘
- 全隨時 九百拾九圓六拾四錢

以上の如く、巨額の稅金を取扱ふ宇部村役場は、他府縣人の來住著しい新川市街に起る煩はしい滯納の惡弊を矯正する爲め、納稅貯金組合を設け、村民が納稅期に至つても、容易に義務を果たすことが出来る定日貯金の方法によつて、日々數名の事務員を各戸に巡回せしめ、少額宛の郵便貯金を勧誘して、納稅の好成績を擧げて居る。現時組合員貳千壹百拾名この口數貳千壹百拾口に達し、一箇月の貯金高は優に壹千壹百九拾參圓餘に上ると云ふ、又貸家組合を設けて、移動の烈しい新川市街民の居所を明らかにし、納稅貯金組合と連結して、納稅及家賃滯納の惡弊を矯正しつゝある。

交通機關及設備

宇部輕便鐵道 宇部の重なる交通機關は宇部輕便鐵道である、官線鐵道東西より宇部驛に下車して陸路宇部に入らんとするものは勿論のこと、厚狹郡南部、宇部藤山厚南或は周防の國吉敷郡西南部に到るものは必ず宇部輕便鐵道の便を藉らねばならぬ、宇部輕便鐵道株式會社は明治四十四年の秋に資本金十五萬圓の株式組織によつて創立され大正三年一月に開通して營業を開始した、宇部驛より新川驛迄四哩一步新川驛を起点として、藤山村藤曲、同村岩鼻、厚南村開作を経て官線宇部驛に連絡して居る。

海運 海運は宇部を起点とするものはないが、毎日定期的に新川港を發着する汽船は四五艘寄港して居る、瀬戸内海航行の大阪商船及尼ヶ崎汽船は兩社とも毎日二回また下關秋田商會の第二辛丸は下關新川間の航海を主として、秋穂、床波、丸尾崎等へも寄港し旅客荷物の輸送を營んで居る。

電信電話

宇部郵便局は西新川朝日町にある、電信の設備は今更謂ふまでもない、時勢の要求は電信を嫌らず去る明治四十五年三月遂に電話の架設を見るに到つた、加名者は第一期二期三期四期を通じて凡そ二百名、尙ほ漸次擴張されつゝある、之れが爲め非常に便利となつた宇部實業家は坐ながらにして話を千里の外に通ずることが出来る。

宇部電気

宇部の設備に付いて特筆すべきものは宇部電気株式会社である、宇部及藤山兩村内の電燈は悉くこの宇部電気株式会社供給する電力に依るので、現今燈數三千五百五十燈、尙この電力は点燈ばかりでなく、機械の原動力にも應用されて居る、その動力供給高は現今百三十馬力である、重なる動力供給先は炭坑、精米所其他工場等で、之れが爲め大いに事業の繁盛を助けて居る、尙宇部は日進月歩の勢を以て益々發達するにつれ、電力應用の事業も盛大となり、人口戸數も日に月に増加して電燈の需要も多くなる許りである、現在宇部電気株式会社の發電装置は(神戸三菱造船所製)水管式汽罐三個(バブコックエンドウイコックス社製)汽

罐二個(三菱製)二百二十馬力機械二臺同四百十馬力一臺(英國ペリーモールカム社製)機械一臺合計千二百三十馬力、發電機(三菱製)百キロワット二臺、同二百五十キロワット一臺(ゼラルコムパニー製)百八十八キロワット一臺合計六百三十八キロワット、給水設備(ガアドナーガバナー社製)三臺(ウオーシングトン社製)一臺、附屬器温水器一臺、外に給炭器一個(目下試験中)表面凝縮器四個等尙汽罐、機械、器具も逐次完全なものを撰んで改設し、時勢の要求に先驅けて益々擴張されつゝある。

新川商業集會所

明治四十四年一月新川有志者の醸金に依つて建設された、新川商業集會所は東新川宮地町にあつて、實業家の集合協議または公共用の寄合ひ所である

旅館と料理屋

宿屋業を営むものが凡二十戸ある、その内、中以上の旅客を待遇す設備の整ふた旅館は六七軒、宿泊料は大抵一泊が四五拾錢以上壹圓位、其の他は普通格安な商人宿及安宿等である、尙完全な設備をなす爲め近頃宇部有力者の發起で壹萬圓の株式組織を以て新川ホテルの建設計畫中である。

次に料理屋は東西新川の到る處にあつて、大小とも相當に繁昌して居る、宇部は附近に許多の漁村を控へて居るので、常に新鮮な魚類に富んで、美味な肴も比較的安く食へる、普通會席一人前四五拾錢位から壹圓迄である。

劇場と遊廓

演劇興行はなかく盛んである、殆んど年中休みなしに、入り替り立ち代り種々の演藝が乗り込んで来る、劇場は東西に二ヶ所あつて西を新川座、東を緑座と云ふ、いづれも観客は晝間の勞を慰する炭坑労働者を引きあてとするので、夜間興行を主として居る、尙近頃二三有志の發起で、東新川に活動寫眞常設館を建設計畫中である。

遊廓は東新川に在る、兎角新開地の通弊として、料理屋飲食店の繁昌の裡面に私娼の悪風が潜んで、風紀を亂すものである、これを取締る爲め、去る明治四十二年其筋から公許された新川の不夜の巷で、周圍は青々とした松林の中に、四時常盤の色を眺めて、名も老松町と云ふ、紅燈きらめいて、弦歌醉聲の絶間もなく廓内十七軒の貸座敷がいづれも相當に繁昌して居る。

炭坑及産業

産物の主なるものは石炭、之れに次ぐは海老及干海老米穀類で、就中産額最も夥しく販路の廣大なるは石炭である。

石炭

宇部殊に新川の發達今日ある由縁は、全く天與の賜物とも謂うべき、石炭産出の恩澤である、故に宇部繁榮の一張一弛は殆んど石炭産出の消長に依るといふも決して過言ではない、近時炭況の好調に伴うて炭坑の勃興するもの多く、現今宇部及附近を合せて十數箇所の炭坑がある、孰れも幾百千の坑夫を使用して盛んに採炭して居る、此外まだ事業に着手せぬ鑛區の試掘中や設計企畫中のものは何程あか枚舉に遑ない位で、實に宇部附近は帝國の一大鑛業地である、其産額も巨大で現今にては年間凡そ百萬噸價額參百萬圓以上を算し、其主なる販路は京阪神地方、瀬戸内海沿岸、北陸、山陰方面から遠く上海、香港の海外にも輸出されて年々販路を擴張して居る、炭質は種々あれど通常五段と大派の二種に區別されて

五段は上等品、大派は下等品である、総て販賣法は宇部鑛業界の習慣として箱詰の容積賣買で、一箱凡九百斤乃至千斤が五段炭塊炭上等參圓拾五錢下等貳圓七拾錢位同切込上等貳圓七拾錢下等貳圓位同紛炭上等貳圓拾五錢下等壹圓七拾錢位、大派塊炭貳圓切込壹圓六拾錢粉炭壹圓五拾錢位、相場は時々變動があつて一定しないが右は現今の各炭坑を通じた平均直段である。(大正三年三月調) 宇部及附近の主なる炭坑を擧ぐれば。

- 沖の山炭坑、第二沖の山炭坑、瀉炭坑、東見初炭坑、見初炭坑、第二神原炭坑、新見初炭坑、東瀉炭坑、新長澤炭坑、宮地炭坑、八幡炭坑、藤山炭坑、大正炭坑、龍正炭坑、須惠炭坑

此外現今創業中の主なるものは

- 一の山炭坑、西沖山炭坑

石炭の沿革として詳かなことは明らかなが古老の話によると、宇部石炭發見の濫觴は、常盤の池を構造した元祿十年の昔である、其當時邑主福原氏の家臣椋梨權

左衛門俊平が、許多の人夫を指揮して地中を掘り堀を築いて居た時、地中から異様な黒い土塊が多數現はれた、何の氣もない人夫等は、此の黒土塊を拾ひ集めて竈を築いて火を焚いた、すると火は漸次竈の土塊に移つて、炎々と黒土塊が燃焼初めた、是に驚いた人々は燃ゆる石があると不思議に思ふた、之れが即ち宇部石炭發見の始めで、夫から其附近の細民は燃料の代用に掘り出して使ふて居たが、時代の進化と共に、世に廣く石炭の需要を見るに至つて、遂に炭坑を組織し大規模の石炭採掘を營む様になつた、と言ひ傳へて居る。

海老

宇部近海で漁撈る海産物の中で、殆んど無儘藏と稱される海老の漁額は實に夥しいものである、この海老を製造して干海老としたものが、新川の一名物に東新川の海岸及岬に數軒の干海老製造業者がある、この干海老は頗る風味よく、遠來の客に手土産として珍重されて居る、直段普通小賣百匁上製四拾錢位並製參拾五錢位、尙ほこの干海老は海外貿易品で、重に神戸の市場に捌かれて南清地方に輸出されて居る、また生海老は樽詰函詰にして、重に東京へ輸送せられ、都人士の

米穀 箸にかゝるのである、近來宇部漁業組合に於ては海老雑詰の製造を試み、本縣水産課の補助によつて目下研究中であるが、逐年好成绩に向ふて居る。

本村内耕作地、田畑凡そ壹萬參千餘及歩から、壹箇年間にあがる收穫高は、
(大正二年末調)

米類 貳萬壹千參百九拾六石
麥類 八千六百貳拾石
豆類 貳千九百八拾七石

養蠶 農家の副業として獎勵されて居る本村養蠶業の一箇年間收穫高は(大正二年末調)

春蠶掃立量 一八三匁 收穫六六石
秋蠶同 七八匁 同 一九石 價格參千百七拾貳圓

神社寺院

琴崎神社

宇部字川上にあり、宇部の氏神八幡宮で、應神天皇の神靈を祀る、堂宇は永

和三年の秋に建立されて其後増築普請を營なんだものである、境内は廣く清らかにて松柏茂り、籟聲颯々琴を奏するが如く、昔は三面海に蒞んで突出した山麓であつて、浪の音、松の聲が四時不斷の樂を合せて風光明媚な仙境であつた、それで琴崎と名づけられたと云ふ。

岬明神

宇部字岬にあり、住吉の神靈を祀る、神社の附近は白砂青松にて幽邃閑雅な地で、前面は洋々たる周防灘に臨み、遙かに本山岬の翠影を眺めて、風影殊に清雅である、社前の碑文に曰く

(前略) 今を距る千有餘年藤曲浦に漁夫助次なる者あり嘗て此地に泊す忽見る波際に光輝あるを、己にして此の如き者再三因て光輝の所在を標し退潮を俟て其處に至れば即ち奇石あり、父子相喜んで曰く即是也と共に之を奉じて以て岸松の下に奠む其夜神人あり夢に漁父に諭げて曰く、吾は乃住吉の靈也在昔神后韓を征して凱旋し海に航して周洋を過ぐ、たまたま颶風俄に起り雷電霹靂す、神后幣を奉じて祈念す、吾其精誠を善みし以て其難を救ふ然して吾甚だ此地の勝景を愛す、去て後靈猶此に遊ぶ、故に嚮に赤龜をして一石を負ひ來らしむ、今汝の得る所是れ吾が靈の寓する所の者也、汝能く奉祀せば吾が靈則ち村民をし

て永く福祉を保たしめんと、語終て夢覺む、漁父其言に遵ひ郷人と議り祠を構へて之を祀る時に仁明帝承命十二年乙丑三月也後世赤龜現出する所の暗礁を名づけて龜か瀬といひ、石を奠むる所の松を名づけて明神と曰ふ(後略)

水神社

東新川緑町三丁目に在り、境内廣々として白砂の地に青松が配置よく生立ちて、自然に風趣を備へた心地のよい處で、毎年五月五日の祭日には市が建つて非常に疏やかである、境内に立てられた碑文に曰く

新川疏通者當時邑主福原君寛政九年十一月起工庶民子來從事寛政十年戊午三月落成式舉行實至明治三十年丁酉壹百年也

之れに依つて見ると新川疏通は寛政十年の昔である。

梶返天満宮

宇部宇梶返にあり、菅公の靈を祀る、今より凡千餘拾年前(延喜元年春)菅公築紫に左遷の途、海路周防灘を過ぐる時、たま〜颶風吹き起つて危難を此濱邊に避けられた、これより此地を梶返しと云ひ、その後三年菅公築紫に薨じて、郷民其徳を敬慕し廟をこの所に建て、其靈福を祈る。

比枝神社

宇部宇川上に在り、山王權現、日吉神社とも云ふ、宇部に於て最も古い神社

嵯峨天皇の弘仁十三壬寅の年に、近江國滋賀郡坂本より勸請したものと云ふ。

維新招魂社

宇部宇小串に在り、維新の役に邑主福原家の藩中に屬して戦歿した忠臣の英靈と、土禰左衛門次郎大江成恒以下二十七名が合祀してある。

終にかく御代の志都米となる神の高き功をたれかあふかぬ 友 信

宗隣寺

宇部宇小串にあり、邑主福原家の菩提寺にて本堂裏の丘陵に福原家の墓地がある、禪宗西山派で同寺の記録によると

人皇四十九代光仁天皇の御宇寶龜丁巳八年唐土の僧威元和尙日本へ渡り給ふ道徳によつて弘め給ふ佛法日に盛り則長門國厚東郡小串村普濟寺七堂伽藍の靈場を開き給ふ其後人皇八十六代四條院の御宇當山門前の海中に夜々光明を放つ事あり脇坊より之を見付け訴へければ扱は不思議なること、綱を引て挽き上げ能々拜し奉れば如意輪觀世音菩薩大宮形佛師綱位の始祖定朝の作なり依て當山へ尊敬し奉る處靈現甚だ殊勝にして日々の功德量り難し其後同郡宇部郷山門村連照山清水寺へ移らせ給ふ以後亂世の打續きしにや自然と普濟寺清水寺共到大破に及ぶによつて就中近隣一里塚の邊の阪上何某の民家へ移し奉る然るに以前の普濟寺の古跡へ當時建立あつて松江山宗隣寺と號す、さある處に大慈の尊像民

信行寺

家に在す事恐れ多きに依て當時中興雲庵和尙に頼み再び當山へ歸らせ給ふ云々
東新川常盤通りに在り、真宗で今から四百二十餘年前(延徳二年)に宇部宇宮
の原に念正といふ僧が建てた寺で、大正二年今の東新川に移した宇部現存中の古
刹である。

教念寺

宇部宇丹太郎に在り、真宗寺で堂閣は宏大にして青瓦松樹の間に聳て見
る、此附近は教念寺がある爲め一名寺の前と通稱して居る。

松月院

浄土宗、同じく丹太郎にある。

覺寶寺

真宗寺で、信行寺と隣接した東新川常盤通りに在る。

光善寺

曹洞宗、西新川寺町に在り境内に觀音菩薩を安置し毎月十七日の縁日には善
男善女の參詣多し。

淨圓寺

真宗で、西新川三炭町にある。

宇部附近の名所舊蹟

常盤の池

新川市街を去る東方凡一里、宇部村大字沖宇部に在り、元祿十年邑主福原氏
の家臣椋梨權左衛門俊平が構造した溜池で、水面の廣さ百八丁餘、灌漑の田圃は
實に三百八十餘丁に及び、周圍三里と云ふ縣下第一の貯水池で、一見人工を以て
造つたものとは思はれず、奈何にも自然的に水は漾々として底深く、長汀曲渚に
漣しづかに寄せて、池畔の松籟もの寂しく、恰も大洋に臨んだ海邊の様な感じ
がする、池上に離れ小嶋があつて松樹蔽茂り、そこに小さな祠がある、小舟を浮
べて池の中央から四邊を眺むれば幽邃閑雅で殊に風景明美である。

岬の海濱

東新川本町通りを東へ真直ぐに行くと、見初、東見初を過ぎて、松青く砂白
き海邊に休憩所を設けた對松園がある、此處は俗にあら松と稱して夏季海水浴で
名高い、前は鏡の様な海に臨んで、風涼しく炎暑の候は來遊するものが最も多い
岬神社にも程近く、一町許りも行くと風薫る松林の中に、白い石の鳥居が見えて
岬の浦の漁歌も手に取る如く聞ゆる、岬は漁村で戸數四五十軒を並べて短かい町
の形をなした、古しへの驛路の様な寂しきと趣きのある處で、海邊に魚市場が設

けてある。

緑が濱

今の東新川一帯の海濱を昔は緑が濱と云ひ、白砂青松の風光明媚な絶勝であつた、炭坑が勃興して松林は切り仆され、砂原に人家が建つて町となり、今は昔を忍ぶ面影もないが、海邊から距つた町筋の裏には松林が長く廣くその名残りを止めて居る、翠松枝を垂れて漣波岸を洗ふてふ清爽な眺めはないが、常盤の色深く雪の様な白い砂地に蟠まつた龍の様な老松や、匍匐して脇を突いた様な形の松や或は舞さしの姿、直立して天に嘯く如きもの、枝と枝とが互に手を引き合つたもの、曲つたもの、臥たもの、返り上つたもの、千姿萬態の松樹が生立つて頗る奇觀に富んで居る、この邊は多く人の氣付かん處で、大概は青松白砂の景色を海邊に探ねる者が多い様であるが、此處もまた隠れた佳境である、就中明治町の裏火葬場から東へ二三町許りの間が最も奇松多く風趣に富んで居る、前述の通り昔の緑が濱は今東新川本町四、五、六町目の間で、現今東見初の東方對松園の附近を緑が濱と稱して居る。

新撰宇部八景

緑が濱の夕照

築島の燈火

龜浦の歸帆

岬の旭潮

新川橋の月色

樋之口の夕靄

常盤池の朝霧

琴崎の松籟

子規

霜降城跡

新川市街を去る北東二里餘、厚東村霜降山に在り、一名城山または厚東城跡と云ふ、壽永元年厚東の郡司厚東太郎武光が築造して、その子孫十七世義武に至り、家運衰退し、弟幸政と不和となり家老士卒の心同じからず、遂に大内弘世の爲め討亡ばされて、延文三年正月霜降城は落城した、今は昔の形もない、只山上が平坦で城廓のあつた跡だけが忍ばれるのみ、附近厚東村には厚東時代に關した浄名寺、持世寺、東隆寺、恒石八幡宮、其他多くの史蹟がある

中山觀音

隣村藤山村字中山に在り、新川市街より凡一里半ばかり、明王山廣福寺と云ふ寺の境内に安置してある觀世音菩薩で、本像は天竺の毘首曷摩の作にして和朝

三休の其一と云ふ、同寺の記録によると

(前略) 人王三十四代推古帝十七年辛未百濟王の御子琳聖太子來朝の時持渡れる尊像なり然るに琳聖太子は周防國多々良の濱に着し其末永久關西に覇たらんと思ひて防州小佐波の大内村に住居して子孫大内氏と號し琳聖太子多々羅着岸故姓を多々羅と號す、其後山口に居城ありし防長石三州の守護職從四位少將大内修理太夫弘世と申すは則ち琳聖太子十九代の孫なり爰に琳聖太子三世の孫に長門守藤根と云ふ人あり幼稚の時より仁德人に勝れ佛神三寶を尊敬し先祖琳聖太子百濟國より持來れる觀世音菩薩を近州無双の勝地に安置せんと思ひ尋ね居たる折柄或朝藤根四方の雲氣を臨むに當山の方に當り五色の光空にたなびき奇瑞に思ひ又翌朝見るに前の如し終に如斯三度に及び是誠の勝地なりと思ひ盲龜の浮木に逢ひける如く喜び急ぎ觀音像を當山に持ち參る途中に不思議や空中に音樂の響を聞き當山の方に當り雲上に四天王形を現し來臨し給ひ觀世音菩薩蓋を指さし守護し給ひて當山の方へ導き地藏堂の前に至り老僧一人出で來り幸ひ此地を進すべしと藤根大いに喜び則堂宇を造立して安置す云々(下略)

毎年二月十八日と八月九日の縁日には參詣者多く非常に賑やかである。

子持御前 新川の西に當つて、海上遙かに見ゆる本山岬の海岸、眺望絶佳な勝地で、須

惠村字南の萬福寺に祀つてある、毎年四月十九日の縁日は非常に雜沓して、子のない婦人が祈願すると必ず妊娠すると云ふので參詣者が多い。

床波 新川から東へ凡二里、西岐波村の漁村で海邊の風景が好く、有名な西光寺の

古刹がある、床波の北五六町の處に片倉温泉(鑛泉湧出)がある。

丸尾崎 新川から東へ凡三里(床波から凡一里東)東岐波村の漁村で、有名な丸尾崎水

難救濟所のある所、海邊の風景殊に明媚で、夏期避暑の好適地である。

炭坑、會社、銀行、資組合

炭坑 (大正三年三月調)

瀧炭坑(西新川沖築島)

頭取 河村喜平

沖の山炭坑(西新川海岸)

東見初炭坑(笹山沖)

頭取 藤本閑作

頭取 渡邊祐策

宇部案内

見初炭坑(笹山沖)

頭取 藤野久一

第二神原炭坑(琴芝)

頭取 新谷軍二

副頭取 藤本與七

第二沖の山炭坑(西新川沖築島)

頭取 渡邊祐策

新見初炭坑(芝の中)

頭取 金山小四郎

新長澤炭坑(恩田)

頭取 國重時右衛門

東瀉炭坑(草江)

取頭 藤野久一

宮地炭坑(琴芝)

頭取 桂桃一

八幡炭坑(中尾)

頭取 西村直吉

西沖の山炭坑(創業中)

副頭取 岡本三郎

一之山炭坑(創業中)

頭取 高良宗七

頭取 河村喜平

會社 (大正三年三月調)

宇部電氣株式會社

(西新川朝日町)

取締役社長 渡邊祐策

取締役 村田増太郎

取締役 林仙輔

取締役 新川元右工門

取締役 高良宗七

監査役 庄晋太郎

監査役 藤本閑作

監査役 河村喜平

宇部共同貯金株式會社

(西新川豎小路)

支配人 上郷與吉

取締役社長 庄晋太郎

取締役副社長 入江護一

常務取締役 小川是山

取締役 植田貞太郎

取締役 篠原義男

取締役 山田小太郎

取締役 山田庄兵衛

監査役 西田小一郎

監査役 安積泰藏

監査役 末村佐太郎

宇部輕便鐵道株式會社

(西新川上町)

取締役社長 村田増太郎

宇部案内

株式會社宇部銀行

(東新川本町二丁目)

取締役 渡邊祐策

取締役 三隅哲雄

取締役 高良宗七

監査役 庄晋太郎

監査役 新川元右工門

監査役 名和田正

支配人 西村策朗

新川驛長 橋本新市

藤山驛長 松崎要之助

專務取締役 紀藤織文

常務取締役 藤本閑作

取締役 林仙輔

取締役 渡邊祐策

取締役 村田増太郎

取締役 藤田勝之介

取締役 高良宗七
 取締役 紀藤閑之介
 監査役 庄晋太郎
 監査役 新川元右工門
 監査役 笹井讓三
 支配人 柏谷定七

宇部新川鐵工所

(西新川海岸通)

理事 渡邊祐策
 理事 藤本閑作
 理事 高良宗七
 理事 國吉信義
 常務理事 牧三平治
 監事 村田増太郎
 監事 入江護一

銀行會社支店出張所

株式會社船城銀行宇部支店

(東新川本町三丁目)

支配人 長谷川玄策

株式會社福川銀行宇部支店

(東新川本川二丁目)

支配人 西村右作

日本貯金株式會社宇部出張所

(東新川常盤通三丁目)

相談役 藤田松坪

取締役 安平義衛

支配人 是恒鬼頭

官公署學校團體名譽職員

宇部村役場

(上宇部丹太郎)

村長 藤田豊
 助役 藤里市介
 収入役 西村保十

船木警察署

宇部分署

(東新川本町一丁目)

分署長警部 篠田勝太郎
 警部補 岡崎敏明

宇部郵便局

(西新川朝日町)

局長 松谷辰藏

村立宇部尋常高等小學校

(上宇部丹太郎)

校長 訓導 松原竹三
 村立新川小學校 (西新川上町)
 校長 訓導 棕梨並枝

宇部案内

村立女子實業補習學校

(上宇部丹太郎)

校長訓導心得 岡本徳代

私立濟美女學校(西新川上町)

校長 高野大祐

私立實業女學校(宇部村大字小串)

校長 仁保ヨシ子

名譽職員

代議士 渡邊祐策

郡會議員 高良宗七

村會議員 西村策朗

新川元右工門

字部案內

村會議員

西村策朗
西田小一郎
岡田太郎
渡邊祐策
瀧原團藏
柏谷定七
村田増太郎
上田久
山崎淳一
山田種千代
牧三平治
前田喜代助
藤田豊
藤田權九郎
藤田勝之介
藤本閑作
高良宗七
紀藤閑之介

四〇

村會議員

紀藤織文
三隅久吾
新谷軍二
庄晋太郎
村田増太郎
紀藤閑之介
村田増太郎
紀藤閑之介
牧三平治
藤田勝之介
安積泰藏
河村喜平
前田仁
植木良平
瀧原潜藏
藤本閑作
牧三平治

防長米審食員

古林門七

上田好太郎

飯田若市

西田作右工衛門

西田久太郎

紀藤閑之介

瀧原團藏

静間惣三郎

庄晋太郎

紀藤閑之介

藤重市介

渡邊祐策

藤田豊

新谷軍二

藤田勝之介

藤田豊

國吉信義

副會長

字部青年會長

副會長

濟生會々員

瀧原團藏

藤田豊

松原竹三

林仙輔

高良宗七

渡邊祐策

紀藤閑之介

藤田豊

河村喜平

國重時右工門

藤田ムメ

村田コウ

安積清吉

藏藤平右工門

字部信用購買販賣組合長

報國産牛組合長

字部礦業組合幹事

納稅貯金組合長

新川貸家組合長

字部家畜市場長

大日本赤十字社字部分區委員

帝國在郷軍人會字部分會長

愛國婦人會字部支部長

字部淑徳婦人會常務幹事

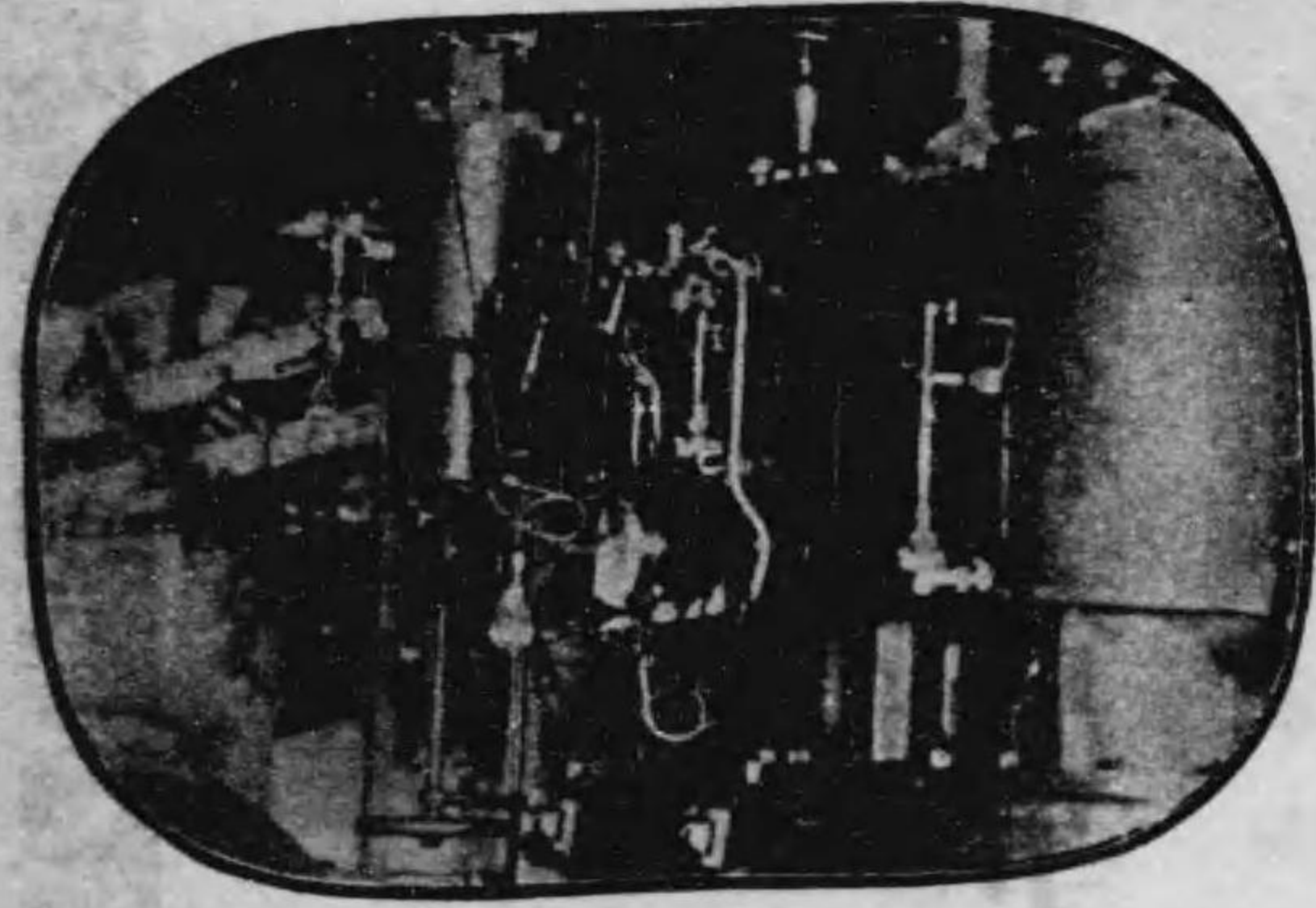
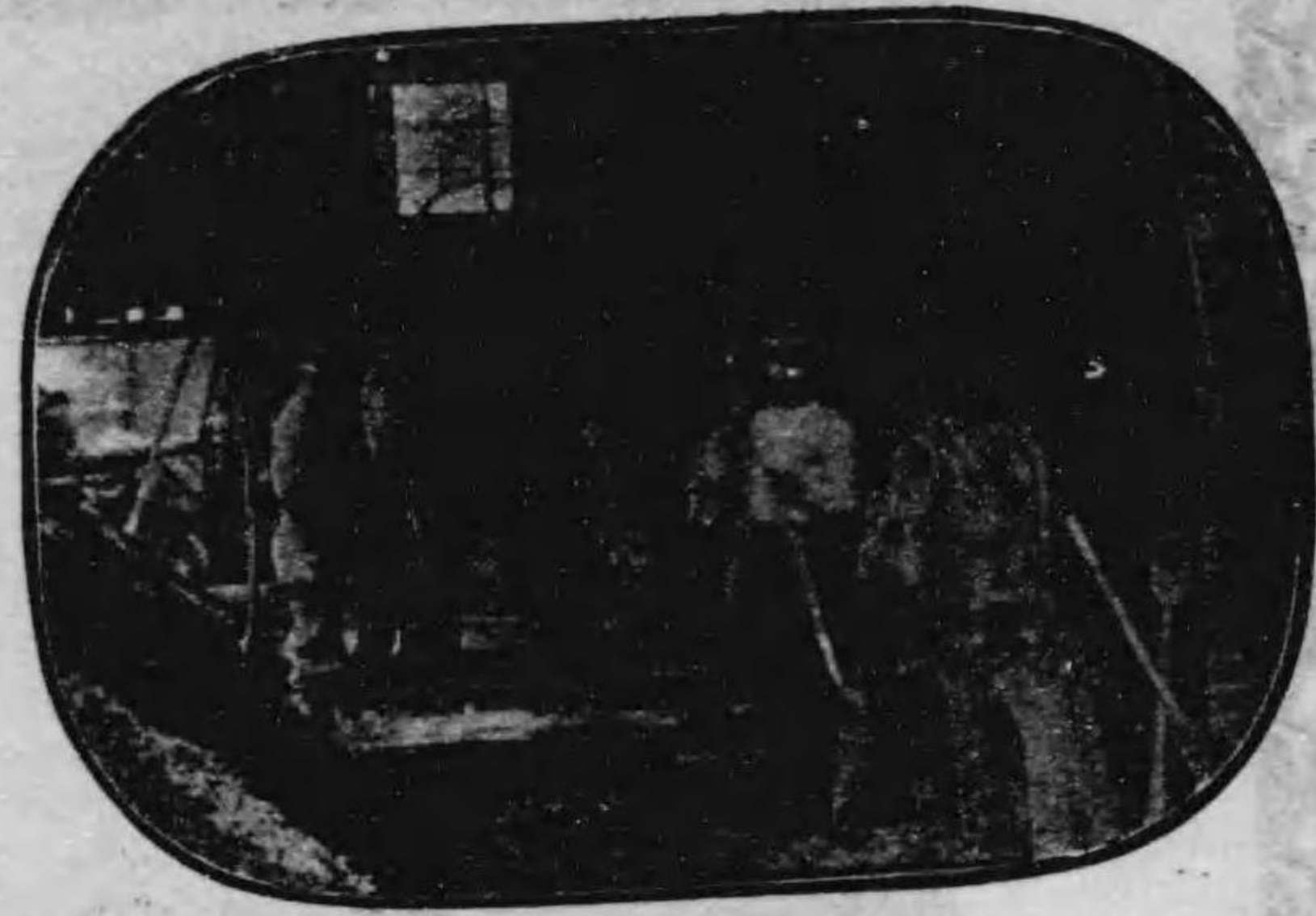
字部石炭商同業組合長

副組長



字部案內

宇部電氣發電部



宇部電氣汽機部

長門宇部新川朝日町

宇部電氣株式會社

電話十五番

宇部
案內

大正三年五月十日印刷
大正三年五月十二日發行

定價貳拾五錢

編輯者 長防出版會

發行者 有山悅三

山口縣厚狹郡宇部村大字中字部千九拾壹番地

印刷者 上野熊太郎

山口縣厚狹郡宇部村大字小串六拾參番地

印刷所 宇部印刷所

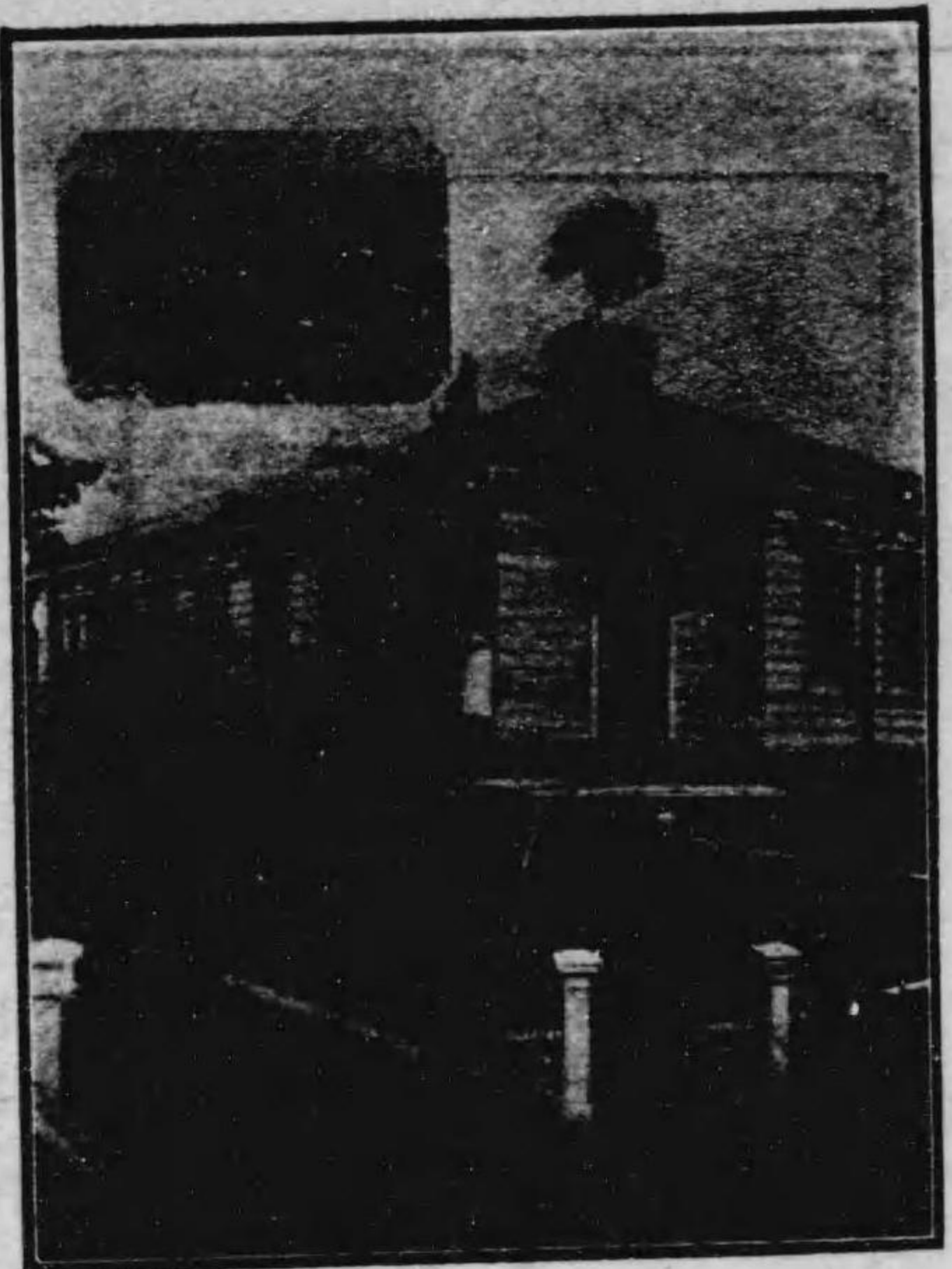
山口縣厚狹郡宇部村大字西新川北町三丁目

山口縣厚狹郡宇部東新川常盤通ノ横丁

發賣所 山田育英館

宇部礦業組合事務所

長門宇部東新川本町一丁目
電話 九 番



株式會社宇部銀行

本店 長門宇部東新川
本町一丁目

電話 五十六番

支店 全 全村丹太郎

電話 五十七番

支店 全 藤山村居能

電話 五十八番

てしに全安法金貯の良最
しるよに大り廻利



宇部共同貯金株式会社

◎當會社營業の特色

會員にして萬一天災地變其他死亡等の場合には當
會社は定款第二十六條に依り全會員若くは其相續
人に對して相當の救助を致します

山口縣厚狹郡宇部新川停車場前

電話一六四番
振替貯金福岡五八〇五番

現代の要求に迫られて新に生れたる貯金金融機關

也利安てしに利便法融金の好絶

銀行一般ノ業務ハ精々



(店本行銀城船)

會社式 船城銀行宇部支店

同 西派出所

同 藤山支店

御便利確實ニ取扱申候

資本金拾五萬圓



日本貯金株式會社出張所

長門宇部東新川常盤通三丁目

相談役 藤田松坪
取締役 安平義衛
支配人 是恒鬼頭

厚狹郡宇部村四新川北町三丁目

宇部新聞社

厚狹郡宇部村四新川北町三丁目

宇部活版印刷所



山口縣長門部
東新川本町二丁目

高橋鐵工所

鑛山船舶
諸機械製造
并二販賣

洗湯
潮湯
製材業

高橋鐵工所
高橋庄主
高橋庄主

製材業

洗湯
潮湯

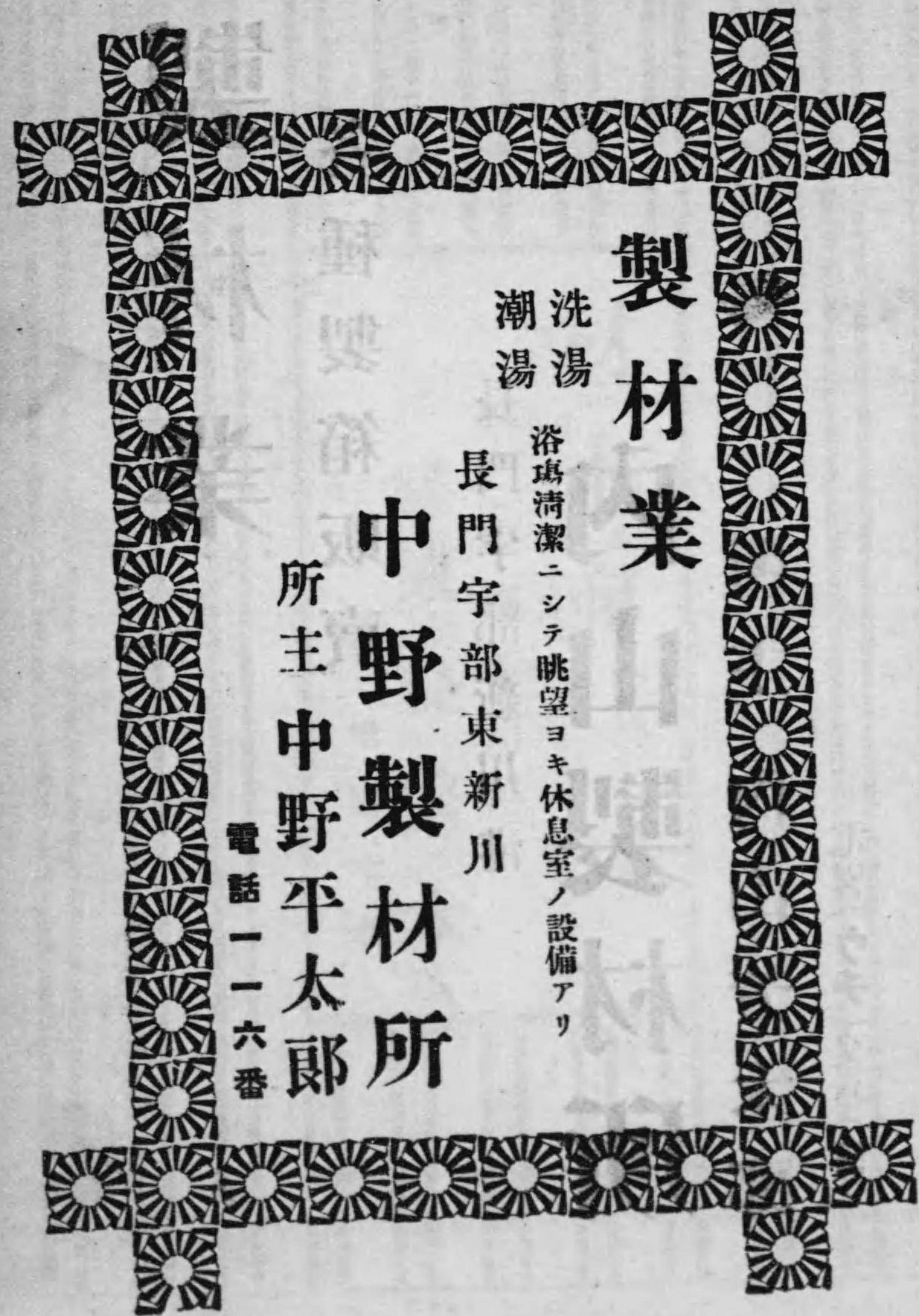
浴場清潔ニシテ眺望ヨキ休息室ノ設備アリ

長門部東新川

中野製材所

所主中野平太郎

電話一六番



製材業

各種製箱販賣

長門字部新川港

内山製材所

所主 内山芳太郎

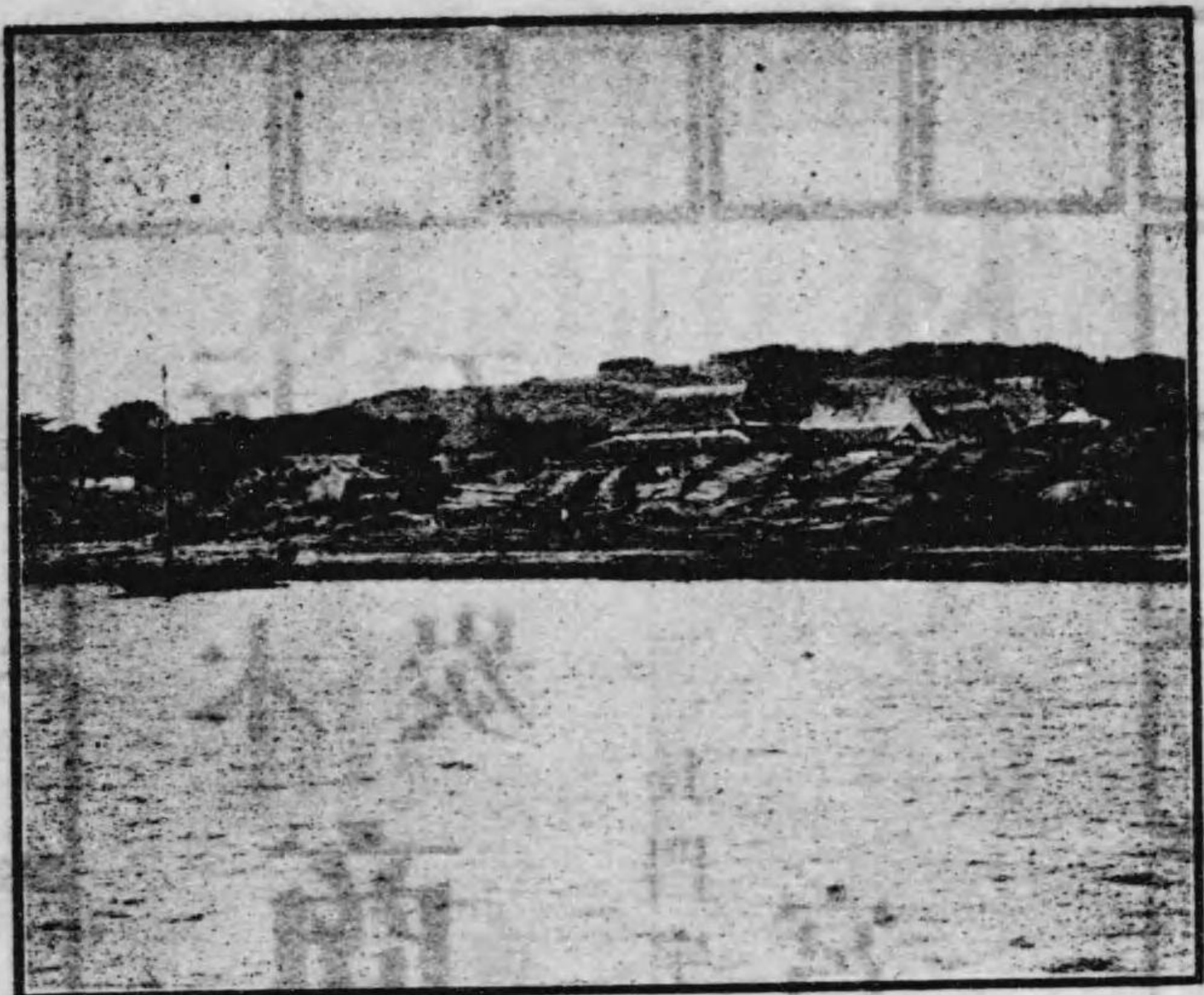
電畧(ウチ)又八(ヨ)

材木商

長門字部新川港

東條繁太

電話十番



坑木商

長門宇部西新川

安部坑木商店

(電話 三十六番)
振替 福岡三八四三番
口座

材木 坑木 商

各炭 礦御用達

長門宇部東新川海岸

小關商店

電話 七番

石 坑
炭 木
商

長門宇部西新川本町

宮田傳次郎

電話(ミ)又ハ(ミヤタ)
電話二〇三番

材木商

山口縣宇部東新川海岸

三浦保市

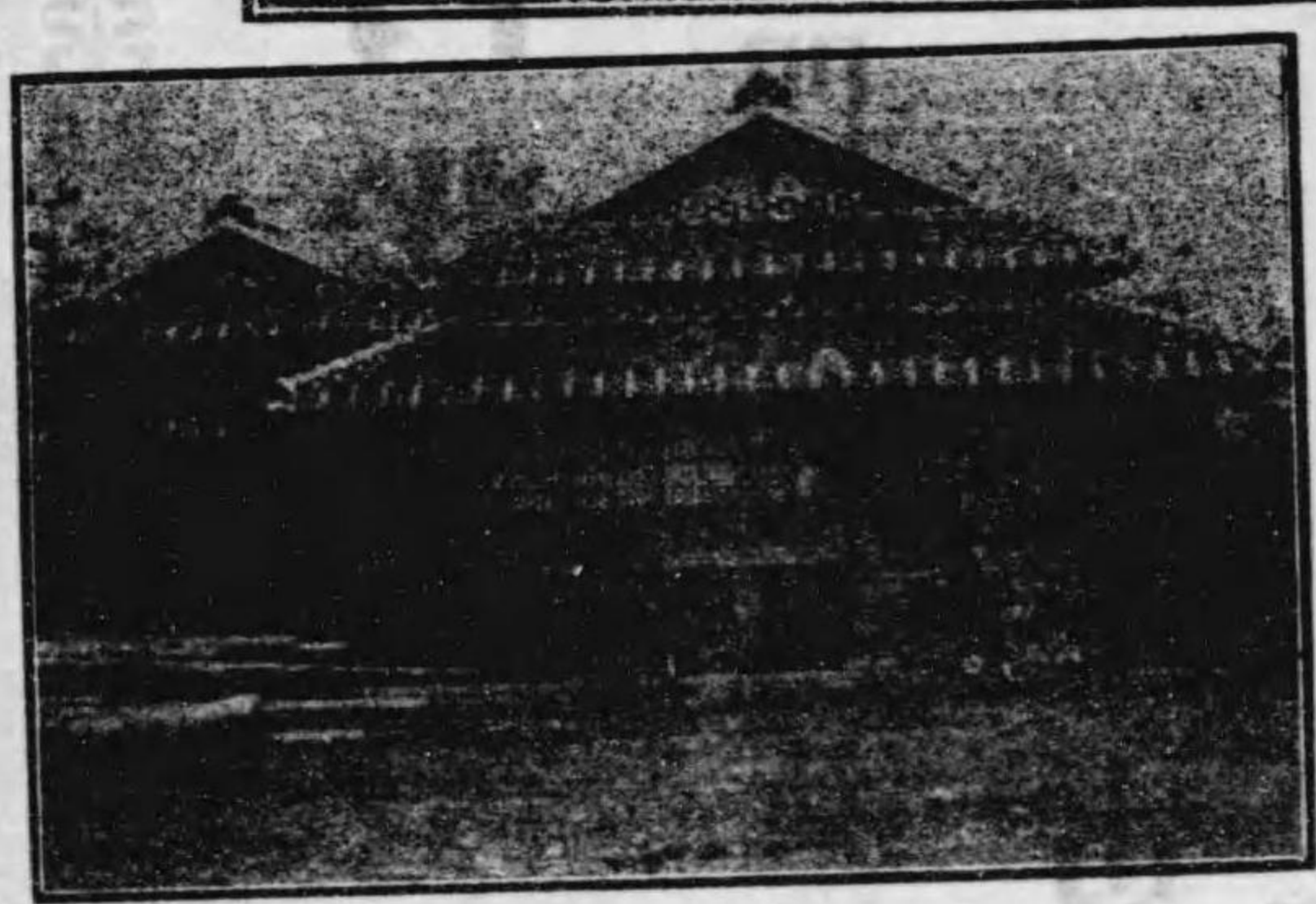
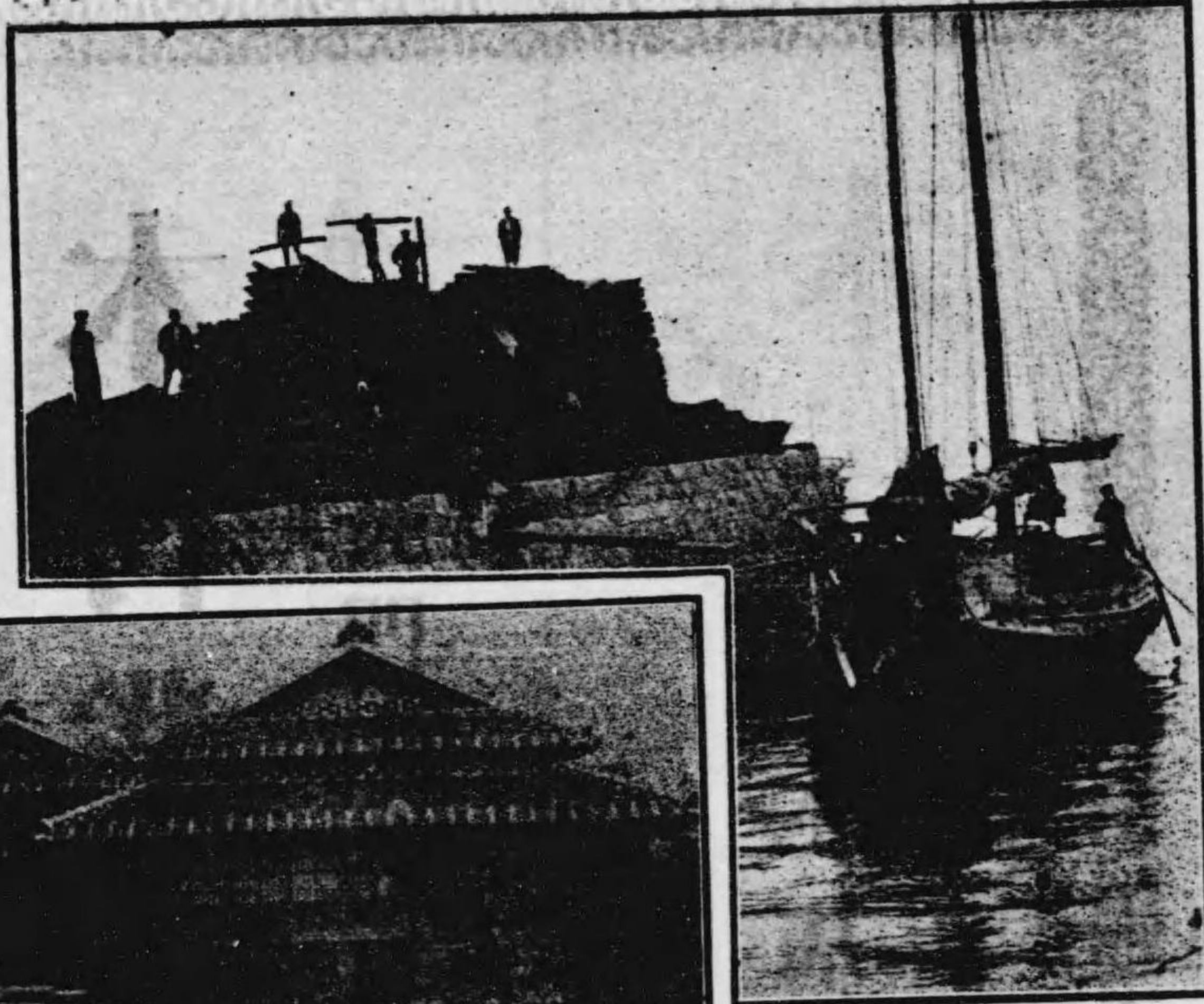
電話二〇二番

材木商

長門宇部西新川海岸通

秋富正一

電話(架設中) 番



炭礦御用達
木材商

長門宇部新川港西區

上田孫一

長（電話百五十五番）
電 略（ウ）

電話四〇番

炭礦御用達

坑木材木商

並醬油釀造販賣

長門宇部東新川本町三丁目

松村商店

木材業

長門宇部東新川



水上寅藏商店

電話(一三)番

本店 周防嘉川驛前

支店 同小郡町

坑

木商

長門宇部東新川松ヶ枝町

小林留吉

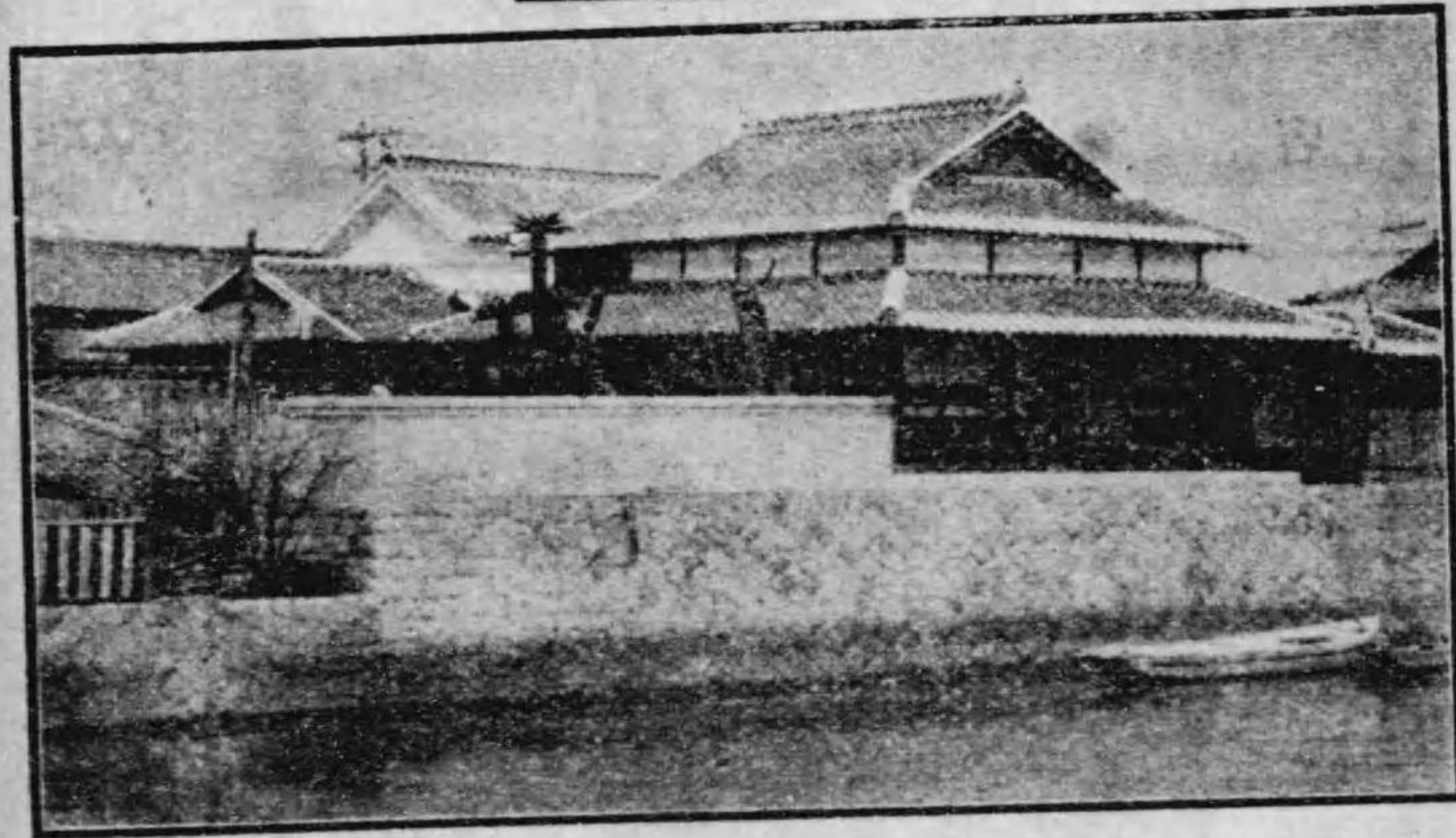
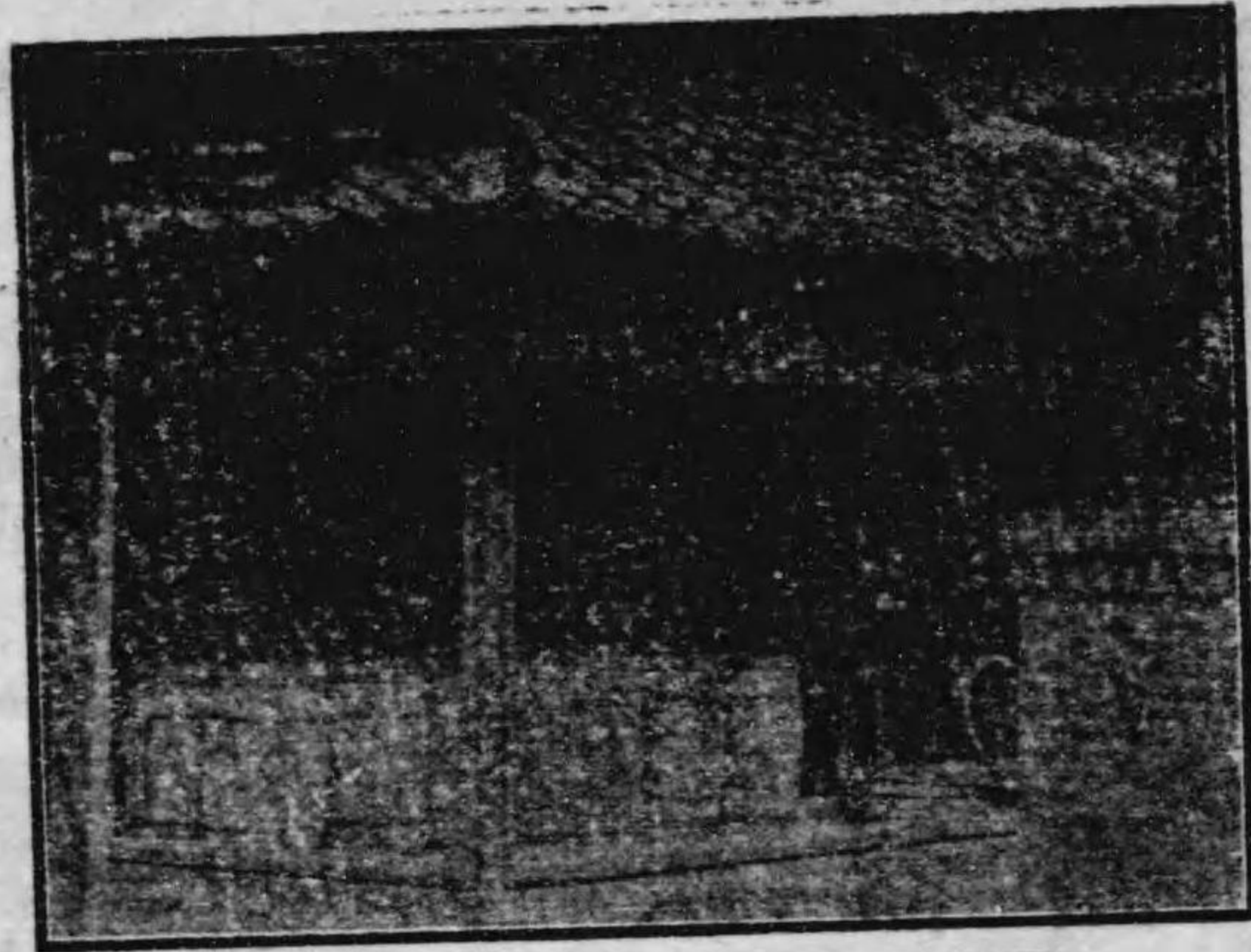
木坑商

長門宇部西新川海岸通

辻岡源次

電話一一一番

小野田セメント
煉瓦各種
改良石灰土管類
特約販賣



山口縣長門部新川
東谷種槌商店

(電話一六二番)
(電略)〇(ヒ)又(ヒ)

土木建築
請負業

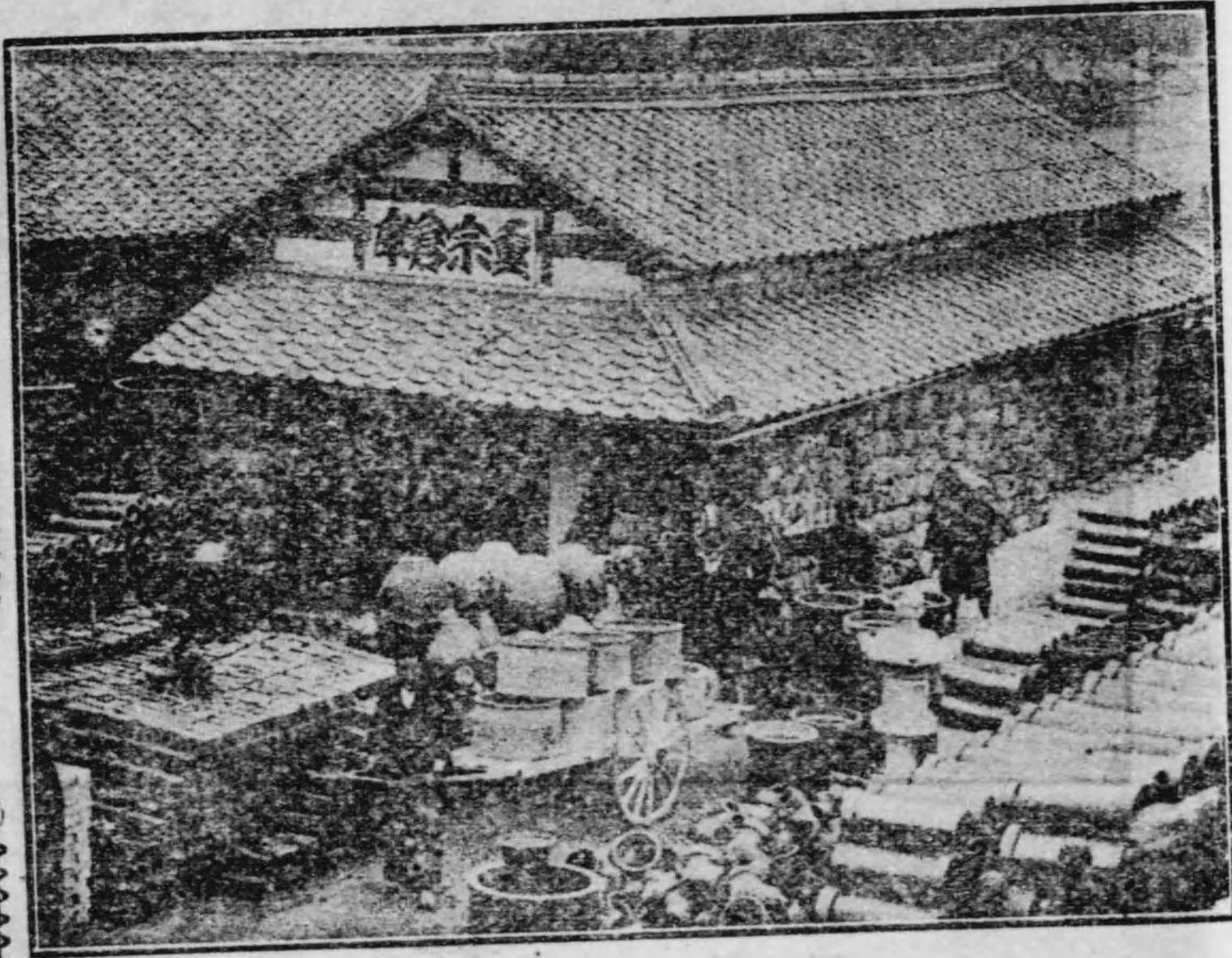
長門宇部新川港
西原房太郎

諸請負業

笹木末市

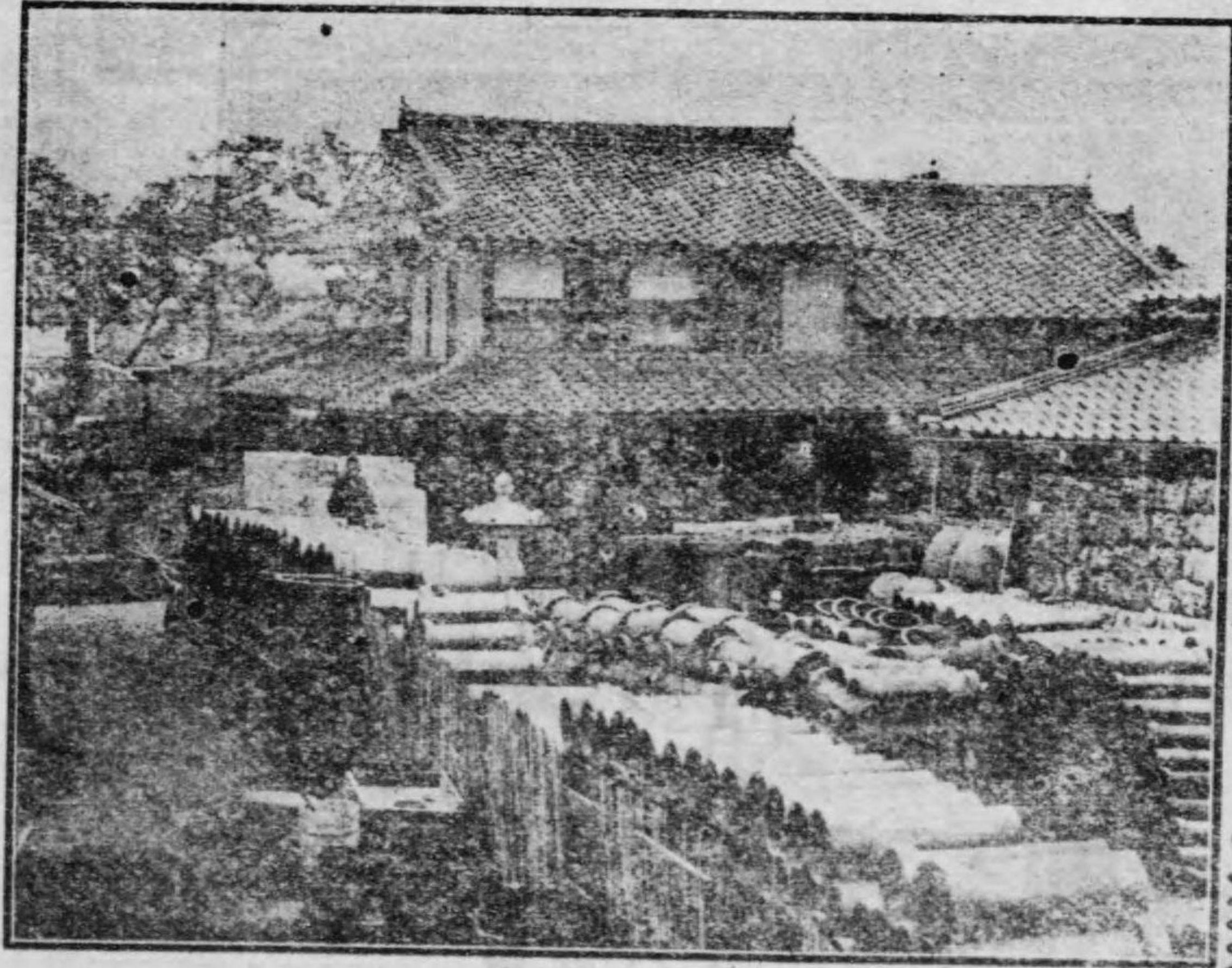
長門宇部笹山

重宗商店貯管場



各種土管
煉瓦各種
セメント
改良石灰
各種陶器
燈籠各種

重宗商店



大販賣

長門宇部新川

重宗商店

電話二〇五番

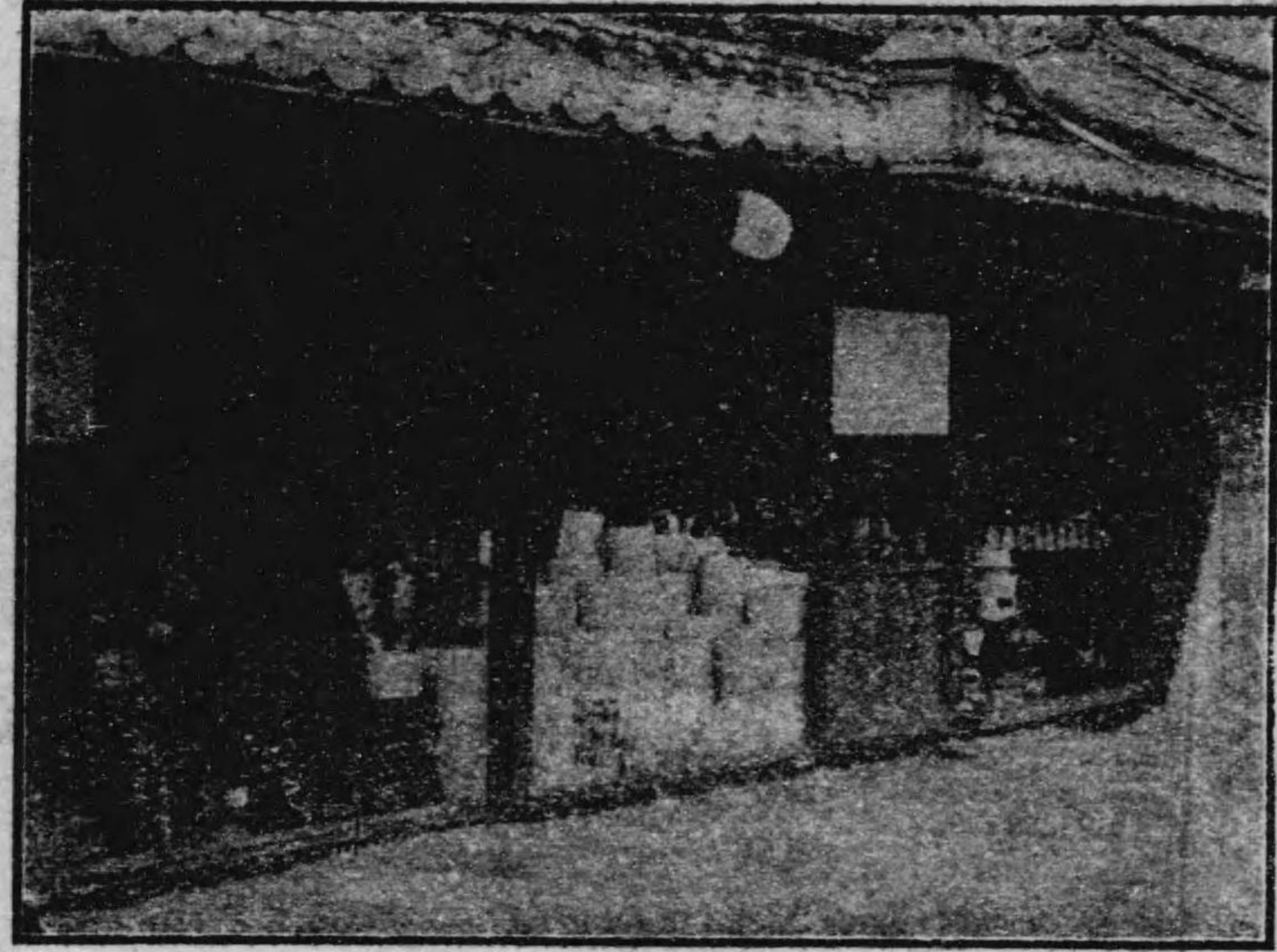
電略(シケ)

歐米最新式裁縫

新川屋洋服店

山口縣宇部新川西區新町通

店主 木村松雄



各國陶磁器商

并三御盃印入所

長門宇部新川港

西區新町通一丁目

佐藤商店

國產
備後表上敷

最新形模各樣種

販賣店

長門宇部東新川

備後屋

氷

卸小賣

鮮魚
海老商

長門宇部東新川水神町

內田乙吉

秋月軒

玉突場

最新四季流行吳服反物類

正札屋

列二原吳服店

長門宇部西新川朝日町

電話一一〇番

最新 呉服 流行 物反服 徳富 呉服 店

長門部宇新川本町四丁目(電話五十四番)



本場久留米 久留米 綿

くめる屋事

川崎商 店

長門部宇新川部銀前

今 横田屋洋服店

長門部宇新川港東區本町一丁目

裁縫 最新 柄

二葉屋洋服店

長門部宇新川東區常盤通 水神町南へ入ル二軒目

長門宇部新川西區

ケ―エス洋服店

内 藤 丈 一

最新式裁縫

三 森口洋服店

長門宇部新川西區新川座通

長門宇部東新川緑町二丁目

◎ 森重半ゑり店

電 畧 (モリ)

萬半ゑり類

紅白祝儀用並ニ帯あげ腰帶

花田商店

長門宇部東新川松ヶ枝町

創業明治二十年

洋服商 伊藤柳之進

長門宇部新川東區寶町

電話百七十四番



確實

安心して

TK

木村等洋服店

注文が出来る店主 木村寅雄

長門宇部新川東區本町一丁目

◎ 福田洋服店

宇部東新川本町五丁目

丁字屋等洋服店

長門宇部新川西區

營業案内

- 一、仲介及紹介
 動産、不動産ノ賣買、金錢貸借
 株券債券賣買
- 一、物品委託販賣及購買
- 一、貸金運用ノ引受
- 一、積立金ノ取扱
- 一、動産不動産ノ管理及整理
 其他委任ニ依ル一般事務ノ處
 理

宇部東新川本町三丁目

宇部信託所

長電話一三八番

勸業債券
 有價證券
 買賣業

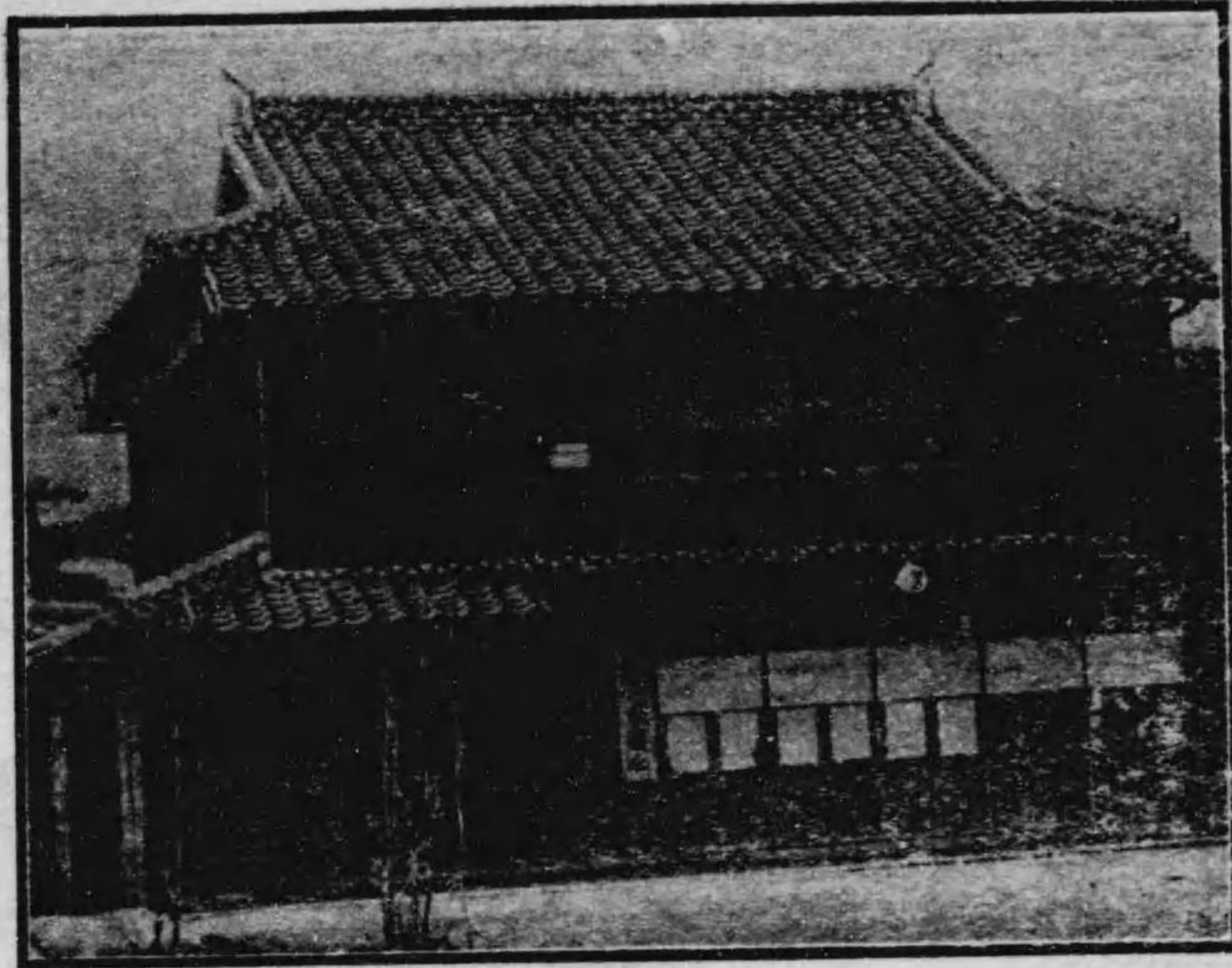
長門部東新川

長井三種郎

諸公債有價證券
 各炭礦株券
 土地建物
 買賣
 多少ニ拘ラズ確實町重
 ニ御取扱ヒ申候

長門部東新川

森阪龜松



●大阪株式定期現物賣買問屋ト特約
致居候ニ付キ御便誼相計リ可申候

電話(四十九)番

野上孫四郎商店

山口縣宇部新川港東區

公債株式
炭礦株券
現物賣買問屋

●弊店電話四拾九番ニテ下關米取引
所每節高低直段御問合セノ方ハ御
容赦ナク御來店ノ上電話御使用被
下度使用料等ハ一切不申受候

●諸公債有價證券●

各炭礦株券

賣買問屋

長門部新川明治町

西村初太郎

炭坑株券

諸公債有價證券

賣買業

建物

土地

長門部新川朝日町

山田長右衛門

宇部第一勉強店

販賣品ノ確實善良ニシテ
安價ナル店



修繕ノ迅速ニ可嚙且ツ
廉價ナル時計店

本店々舗

本店 長門宇部東新川橋筋常盤通一丁目
支店 長門小野田セメント會社南 十丁

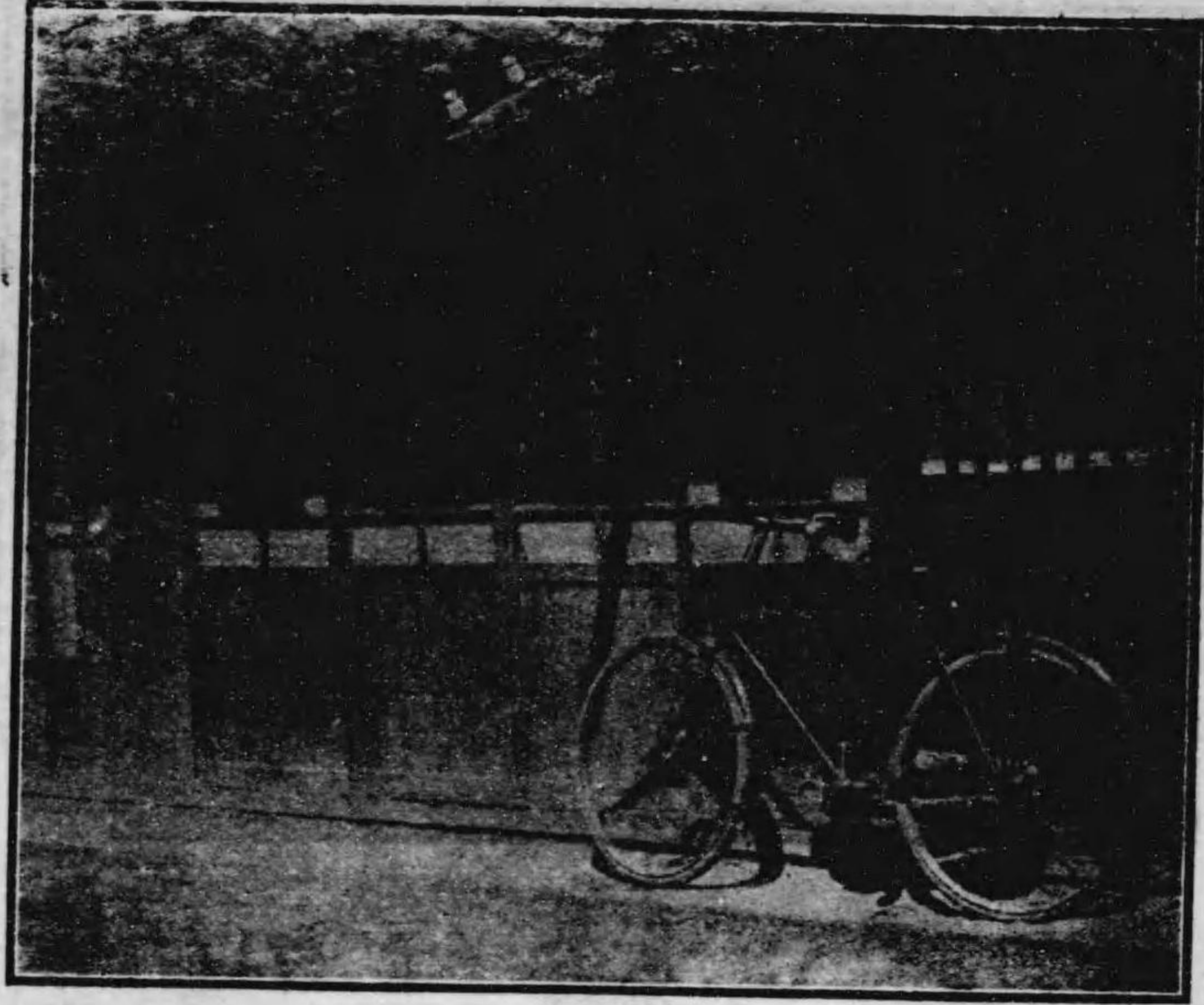
田中時計店

時計各種
金銀附屬
指環眼鏡
蓄音器
電氣電鈴

(電話) 番
電話(タト)又ハ(夕)

宇部看護婦會

規則書ハ申込次第進呈ス



各公債
諸株券
賣買專業

山口縣宇部
新川西區町

三隅瀧之進

電話(一四七番)
電話(マルサン)又ハ(ミタ)

謹告

一弊店ハ確實ヲ旨トシ益々將來
ノ信用ヲ希望スルナリ
一弊店ハ直段ノ競争ヨリモ確實
完全良好ナル物品ヲ競争ス
一弊店賣品及修繕品ハ永久的其
責ニ任ズ
一弊店ガ如何ニ確實勉強スルカ
ハ御來店アリテ明カナリ

長門宇部東新川本町

各種時計
貴金屬
附屬品
山西寶集堂
指輪眼鏡、懷中電燈、

各種時計

如何ナル
破損品ニ
テモ期日
迅速安價
入念ニ仕
リ候

宇部東新川松ケ枝町

藤井時計店

蓄音器

各種時計及付屬品

貴金屬製指環

美術品裝飾具

眼鏡類各種

品質優良 價格低廉

山口縣宇部新川
西區本町一丁目

☆ 宮川時計店

電話(ミヤ)又ハ(ミ)

神社佛閣、佛壇佛具、
新調製造、並ニ塗箔業、

長門宇部寺ノ前

商號 近江屋 今柳瀨辰次郎

宇部新川 陳列場

漆器商

宇部東新川常盤通

紀州屋



歐米最新式自轉車
各種及附屬品販賣



并ニ修繕一式

フライヤ号 長門宇部寺之前
特約店 榊田自轉車商會

●弊店が献身的に提供せるモータ印自轉車
は今や輪界の一勢力と相成候

一號モータ号八拾五圓

二號モータ号六拾五圓

三號モータ号四拾八圓

- 商品吟味
- 薄利多賣
- 取引確實
- 修繕迅速
- 通信敏活
- 町寧親切



●何故にモータ自轉車は輪界に公認せらるる?
曰く品質優良 價格低廉

長門宇部東新川
輪友商會

藤城自轉車店

電話一七三番



ハンバー号 特約店
オーエム号

自轉車修繕
付屬品販賣
鍍金塗替一切

長門宇部西新川本町三丁目

山崎自轉車商會

電話(ヤマ)



各種自轉車
付屬品一切 販賣
並ニ修繕

長門宇部東新川港東區本町六丁目

池田自轉車商店

英國製自轉車グロリヤ號特約店 并ニ
各種自轉車付屬品一切販賣 修繕

長門宇部新川東區本町一丁目

藤金自轉車商店

電話 二二二八番

商標



履物卸商

中野善吉商店

長門宇部新川東區
榮町二丁目

電略(ナカ)又ハ(ナ)

和洋襖用紙
諸帳簿式
提灯側
博多ぶんじや
リヨマチ藥
特約販賣

長門宇部新川本町二丁目

繩田商店

表具師



山口縣厚狹郡宇部
梶返

正木定吉



米 雜 穀
和 洋 酒
砂 糖
メ 粉
リ ケ ン
醬 油
乾 物
一 切

卸 小 賣

長門新川區本町二丁目
內田勝商店



化粧品雜貨
卸問屋

長門宇部新川東區常盤通

下關 藤津出張店

商 登
標 録
銘酒
男山

長門宇部西新川

永山酒場

電話七〇番

標

商



醬油

味噌

店商屋松

川新東部字門長

ふんぐもかんぐも

美術小間物一式

高等化粧品雜貨

卸小賣ニッコ屋

夕
西田民恵商店

長門宇部東新川

ふんぐものにはふんぐ



歐米雜貨
萬小間物化粧品
其他いろいろ
破格廉價の親玉
宇部新川港東區松ヶ枝町
藤井逸商店

諸官衙
各炭鑛
會社

山口縣宇部新川東區常盤通一丁目

御用達印刻師 川口順克堂

副諸印刷請負 和洋諸帳簿
業高等文房具販賣

諸官衙銀行會社

印章彫刻

各炭鑛御用達

附屬營業科目

長門宇部東新川本町二丁目
五堂
永吉
全分店

小間物 貴金屬 商 △ 翠山堂 白川 佐市

長門宇部東新川常盤通

宇治銘茶 商

并二茶器

長門宇部新川西區本町
鶴田好露園

吳服和洋雜貨

伊吹本店

長門宇部西新川

最新流行履物

伊吹支店

長門宇部西新川

たんす戸棚 一
嫁入道具 一
其 漆器家具
理髮道具 切

長門宇部新川港

村万商店

電話百四十番



和洋家具類製造販賣

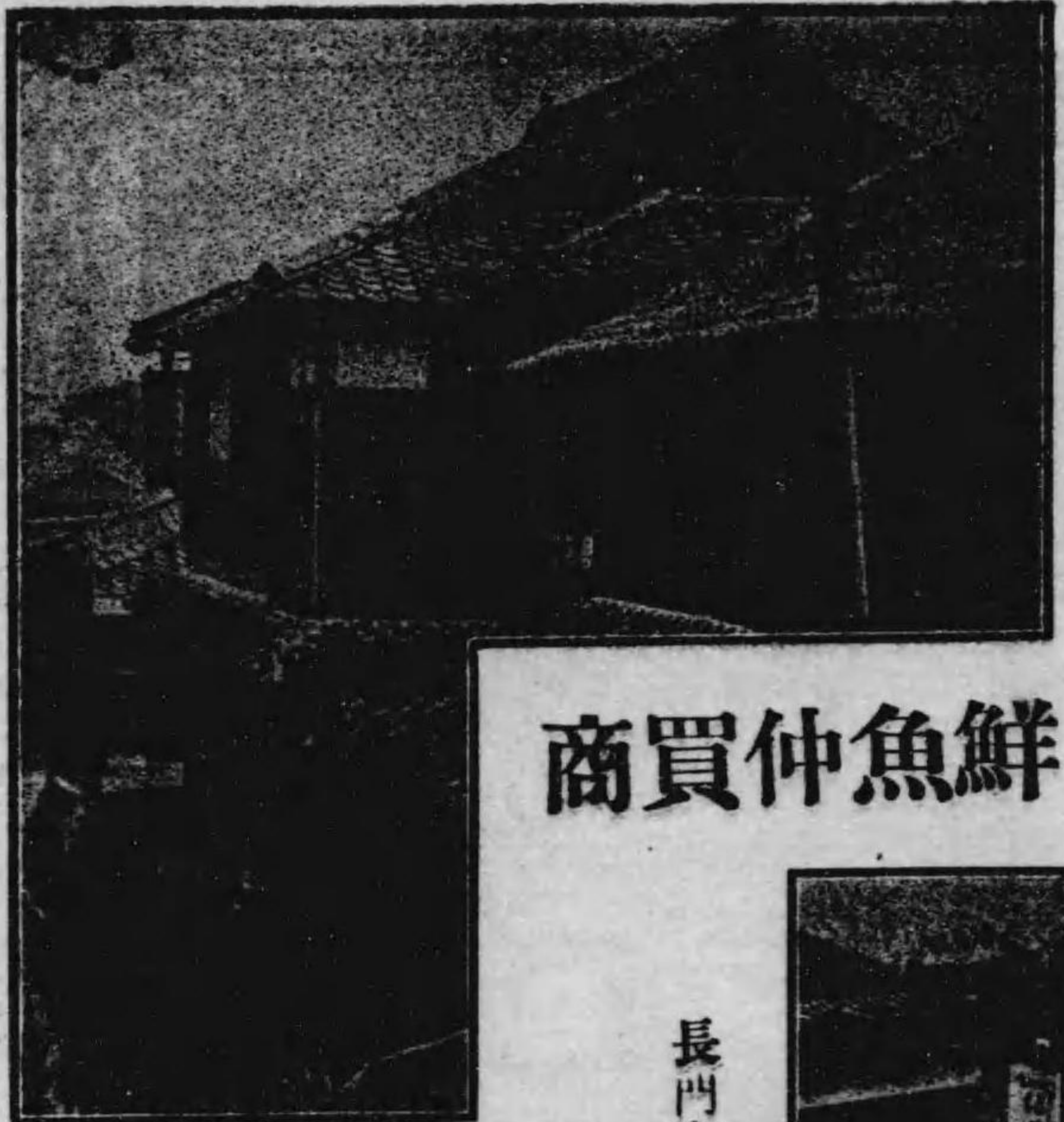
嫁入道具 御好みに應じ調製致し候

長門宇部東新川松ヶ枝町

花村商店

和洋御料理

會席仕出し



鮮魚仲買商

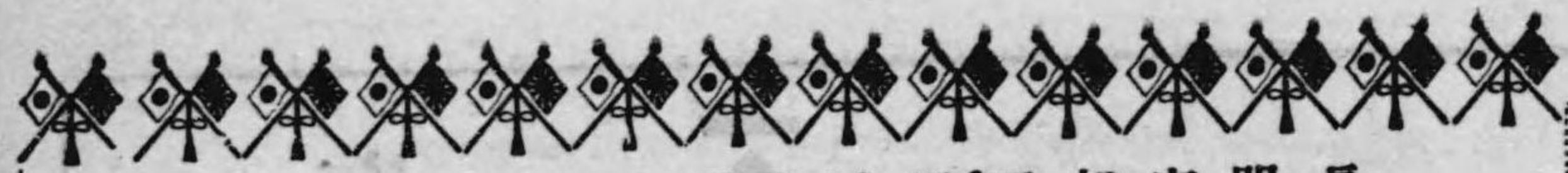


長門宇部新川港東區本町五丁目

ほりべ亭

堀部治三郎

電話百三十四番



長門宇部新川(電話三百九十九番)



新川座

中村次之介島本一助

和洋御料理會席仕出し



長門宇部東新川蛭子町角
(電話架設中)

精樓改

佐々木豐次郎

萬朝日新聞
大阪朝日新聞
大阪時事新聞
大阪新報
防長新聞
馬關每日新聞
關門每日新聞
六連新聞
福岡日日新聞

取次販賣所

町寧敏速配達

長門宇部東新川松ヶ枝町

丸山新聞鋪

海產製造

下關秋田商會

汽船取扱店

山口縣厚狹郡新川港

花田壽之助

電話 二三〇番
電略(ヤマハ)又(ハ)

長門新川港

尼崎汽船部荷取扱店

新川共同組

大阪商船株式會社汽船荷取扱店

長電話一六三番

宇部輕鐵線宇部新川驛前

繩田運送店

電話一五四番

馬關每日新聞	大阪朝日新聞	大阪日日新聞	報知新聞	東京每日新聞	防長實業新聞	門司新聞	其他全國各新聞
--------	--------	--------	------	--------	--------	------	---------

取次販賣所

長門字部西部新川北町

藤重新聞舖

賣藥化粧品製造販賣

長門字部東新川明治町

西洋洗濯業

小川商店

海產製造
材木販賣

內外石油機械油
種油す並空瓶販賣商

長門字部岬

栗屋米八

電話百三十七番
電略(ヤマア)又(ア)

長門字部東新川榮町

菊田商店

圖書雜誌

內外美術繪葉書

高等文房具

長門部東新川常盤通橫丁
育英館
山田新松

宇部著名實業家案内

いろは順
廣告欄參照

- | | | | |
|-----------------|---------------|-------------|---------------|
| 炭坑用品商
櫻井ル特約店 | 石本與兵衛 東區本町五丁目 | 半るり商 | 花出 フジ 東區松ヶ枝町 |
| 酒醬油商 | 伊勢 清藏 西區北町三丁目 | 金物商 | 橋本 只一 東區本町六丁目 |
| 料理鮮魚商 | 池尻 惠太 東區本町一丁目 | 海產、回漕店 | 花田壽之助 東區海岸 |
| 醬油味噌商 | 伊藤 商店 東區綠町一丁目 | 日本貯金株式會社出張所 | 東區 |
| 自轉車商 | 池田 繁治 東區本町六丁目 | 金物商 | 西出 茂八 西區新町通 |
| 吳服雜貨商 | 伊吹 平八 西區本町一丁目 | 請負業 | 西原房太郎 東區本町四丁目 |
| 履物荒物商 | 伊吹 孫八 西區本町一丁目 | 藥種商 | 西村寅之助 東區本町五丁目 |
| 洋服商 | 伊藤柳之進 東區寶町 | 株券問屋 | 西村初太郎 東區明治町 |
| 石炭商 | 生田定右工門 西區海岸通 | 小問物商 | 西田 民惠 東區松ヶ枝町 |
| 鐵工業 | 市丸勝次郎 宇部助田 | 料理鮮魚商 | 堀邊治三郎 同 本町五丁目 |
| 家具商 | 花村 商店 東區松ヶ枝町 | | |

吳服商 德富 新治 東區本町四丁目
 材木商 東條 繁太 東區本町二丁目
 洋食屋 東洋 軒同 常盤通
 材木商 小關 千力 東區海岸通
 鐵工業 仰木 鹿吉 東區寶町
 洋酒食料品商 太田 計助 東區本町三丁目
 旅館料理屋 岡村 成治 東區榮町
 藥種商 小川 是山 西區本町壹丁目
 質屋、鑛山業 岡村伊三郎 東區本町五丁目
 石炭商 岡田 正作 東區榮町
 醫師 奧野 正作 西區北町三丁目
 西洋洗濯 小川光太郎 東區川治町
 酒商 綿部 支店 東區見初
 金物商 柏谷 定七 東區本町三丁目
 鐵工業 香田 三郎 西區北町
 印刷商 川口印刷店 東區常盤通
 久留米耕商 川崎 商店 東區本町壹丁目
 石炭商 河村 勇治 西區海岸通
 旅館 吉母 ヒサ 東區綠町

洋服商 橫田 屋 東區本町壹丁目
 材木商 田村勘一郎 東區海岸通
 時計商 田中時計店 東區常盤通
 鐵工業 高橋 庄太 東區本町貳丁目
 旅館 武波 千代 東區水神町
 雜貨商 竹山 德平 西區新町通
 料理店 田中 藤吉 西區本町壹丁目
 齒科醫 鶴谷 猶吉 東區仲町
 茶商 鶴田 茂元 西區本町壹丁目
 玩木商 辻岡 源市 西區浜沖海岸
 洗湯、製材業 中野平太郎 東區本町四丁目
 石炭商 中西 茂吉 西區本町壹丁目
 雜貨商 中山 藤松 東區明治町
 洋服商 內藤 丈一 西區本町二丁目
 紙荒物商 繩田清太郎 東區本町二丁目
 株券問屋 長井種三郎 東區綠町三丁目
 料理店 繩田 フジ 西區新川座前
 劇場 中村次之助 西區新川座
 履物商 中野 善吉 東區榮町

運送業 繩田松太郎 西區新川驛前
 石炭商 長本谷兵衛 東區本町三丁目
 酒商 永山惣五郎 西區本町壹丁目
 家具商 村田 万七 東區本町一丁目
 白米荒物商 村岡 商店 西區新川驛通
 醫師 村上 悅十 西區北町三丁目
 宇部電氣株式會社 西區朝日町
 宇部輕便鐵道株式會社 上町
 宇部共同貯金株式會社 豎小路
 宇部 新聞 社同 北町三丁目
 坑木商 上田 孫一同 海岸通
 宇部 銀行 東區本町一丁目
 宇部鑛業租台事務所 本町一丁目
 金物商 內田 金作 同 海岸
 水、魚、玉突商 內田 乙吉 同 水神町
 米穀商 內田 勝 西區本町一丁目
 製材業 內山芳太郎 東區海岸
 精米業 野村菊太郎 東區本町三丁目
 株券問屋 野上孫四郎 東區綠町

病院 國重 嘉吉 西區新川驛前
 石炭商 藏藤平右工門 西區海岸通
 株券問屋 山田長右工門 西區朝日町
 旅館 八木 サヨ 西區新町
 備後上敷商 山本 商店 東區松ヶ枝町
 佛壇商 柳瀬 商店 同 常盤通
 自轉車商 山崎 商店 西區本町二丁目
 時計商 山西寶集堂 東區本町四丁目
 鐵工業 山田 直吉 西區上町三丁目
 書籍商 山田 新松 東區水神町
 金物商 榊谷商會支店 東區本町二丁目
 新聞取次 丸山新聞舖 東區松ヶ枝町
 齒科醫 增田 照夫 東區榮町
 自轉車商 榊田 商店 宇部寺の前
 眼科醫 前田 仁 東區本町一丁目
 材木商 松村謙之助 東區本町三丁目
 表具師 正木 定吉 宇部梶返
 自轉車商 藤金 藤一 東區本町一丁目
 化粧品商 藤津 支店 東區常盤通

鐵工業 藤田藤右工門 西區相生町
 洋服商 二葉屋 東區水神町
 鐵工業 藤本稻次郎 東區
 洋服商 福田洋服店 東區本町五丁目
 料理屋 藤井治三郎 同 本町四丁目
 新聞収次 藤重 繁一 西區北町
 時計商 藤井 商店 東區松ヶ枝町
 雜貨商 藤井 逸 東區松ヶ枝町
 石炭商 福山協榮社出張所 東區榮町
 自轉車商 藤城 政吉 同 榮町
 坑木商 小林 留吉 東區松ヶ枝町
 洋服商 丁字屋 西區北町
 雜貨商 蛭子 末次 同 新川橋際
 石炭商 安積 清吉 東區本町二丁目
 信託所 安積 泰藏 東區本町三丁目
 坑木商 安部 雪松 西區海岸
 材木商 秋富 正一 西區海岸
 吳服商 秋田 商會 東區本町二丁目
 海產製造 粟屋 米八 字部岬

石炭商 阿野和二郎 東區本町三丁目
 陶器商 佐藤 定一 西區新町
 料理店 佐々木豊次郎 東區蛭子町
 鐵工業 北村安兵衛 同 明治町
 漆器商 紀州屋 同 常盤通
 石油商 菊田 商店 同 榮町
 洋服商 木村 松雄 西區新町
 洋服商 木村 寅雄 東區本町一丁目
 吳服商 三隅 恭平 同 常盤通
 坑木商 水上 寅藏 同 海岸
 坑木石炭商 宮田傳次郎 西區本町二丁目
 石炭商 三木儀之助 同 本町二丁目
 株券問屋 三隅瀧之進 同 新町
 料理店 宮市 樓 東區本町一丁目
 吳服商 三原 幸藏 西區朝日町
 時計商 宮川 商店 同 本町一丁目
 材木商 三浦 保市 東區海岸
 小間物商 白川 佐市 同 常盤通
 土管商 重宗 商店 同 宮地町

鐵工業 柴田彌之助 東區海岸
 高船尼崎荷客扱店新川共同組 東區海岸
 劇場 島本 助一 西區
 セメント、煉瓦商 東谷 種穂 東區朝日町
 酒菓子商 平井 一郎 西區新川座前
 株券問屋 森阪 龜松 東區榮町
 洋服商 森口鐵次郎 西區新川座通

鐵工業 森永 勝助 東區本町六丁目
 鐵工業 船城銀行宇部支店 東區本町三丁目
 印刷商 末松國五郎 東區常盤通
 醫 師 隅 永 吉 東區本町一丁目
 醫 師 末永 理一 西區北町
 酒 商 末廣 千十 東區本町一丁目
 出版業 硯谷 耕藏 西區本町三丁目
 印刷請負業 有山 悅三 東區
 上野熊太郎 西區

宇部特設電話番號表

大正三年三月調

- 番外 一番 宇部郵便局
- 〇番 電話事務用
- 六〇番 電話交換用
- 番外 二番 藤山郵便局
- 番外 三番 床波郵便局

- イ(井)之部
- 一四 石本與兵衛 東新川本町六丁目
- 三一 生田定右工門 西新川海岸通
- 三四 伊豫屋商店 西新川朝日町二丁目
- 四五 磯山 卯一 東新川本町二丁目
- 六六 伊藤文右工門 東新川本町三丁目
- 一二九 一福樓 東新川綠町三丁目

- ニ之部
- 六九 西村豊三郎 沖字部梶返
- 一〇六 西田 政助 東新川
- 一五一 新川元右工門 東新川本町一丁目
- ホ之部
- 長七五 本瀬元五郎 西新川本町一丁目
- 一三四 堀部治三郎 東新川本町五丁目
- ト之部
- 一〇 東條 繁太 東新川本町二丁目
- 一九 德澤 忠七 東新川本町四丁目
- 五四 德富 新治 東新川本町四丁目
- 一〇七 東 園 東新川寶町
- チ之部

- 二三 千歲舍旅館 東新川榮町二丁目
- ヲ(オ)之部
- 七 小關 チカ 東新川海岸通
- 二五 沖ノ山炭鑛鑛業事務所
- 長三五 沖ノ山炭鑛販賣事務所
- 六四 岡田 正作 東新川榮町二丁目
- 六七 岡村伊三郎 東新川本町五丁目
- 七四 太田 計介 東新川本町三丁目
- 長一〇三 老松 樓 東區老松町
- 長一一三 大盛 亭 東區本町四丁目
- 一一八 大木 金一 沖字部梶返
- 一一三 岡村幾太郎支店 新川驛前
- 一四九 小川 是山 西區本町二丁目
- ワ之部
- 五 渡邊 祐策 宇部字嶋
- 一一九 若葉 樓 東區老松町
- 五九 渡邊彌三郎 東區本町一丁目
- カ之部
- 二 瀉炭鑛事務所 西新川

- 一六 河村 喜平 東區明治町
- 三九 河村 勇次 西區海岸通
- 五五 河村 喜平 中宇部川津
- 六二 桂 桃 一 中宇部梶返
- 長一一一 桂 桃 一 東區水神町
- 一一三 柏谷 定七 東區本町三丁目
- タ之部
- 二四 第二沖ノ山炭鑛事務所
- 二六 第二神原炭鑛事務所
- 四七 田中 榮作 西區本町三丁目
- 長一〇九 田村 孫吉 西區本町三丁目
- 一四二 瀧原 潛藏 宇部字丹太郎
- 長一五〇 第二沖ノ山炭鑛事務所
- ツ之部
- 一一一 辻岡 源次 西區海岸
- 七〇 永山惣五郎 西區本町一丁目
- 一一六 中野平太郎 東區本町五丁目
- 一五四 繩田運送店 新川驛前

ム之部

- 六五 村田増太郎 上宇部山門
- 一二五 村上 悦十 西新川北町
- 一四〇 村田 萬七 東新川本町一丁目

ウ之部

- 一 宇部村役場 上宇部丹太郎
- 四 宇部警察分署 東新川本町一丁目
- 九 宇部鑛業組合事務所東新川本町
- 一五 宇部電氣林式會社 西新川朝日町
- 二〇 上杉 治助 東新川老松町
- 二一 内田 金作 東新川海岸通
- 五六 宇部銀行本店 東本町一丁目
- 五七 丹太郎支店
- 五八 藤山 支店
- 一〇五 植田貞太郎 西區本町一丁目
- 一〇八 宇賀 市藏 東區本町四丁目
- 一一八 宇部輕便鐵道株式會社
- 一二七 宇部隔離病舎 東區常盤通
- 長二三八 宇部信託所 東區本町三丁目

長一五五 上田 孫一 西區海岸通

- 一六四 宇部共同貯金株式會社 西新川
- 一六五 宇部郵便局長松谷 辰藏 藤曲

ノ之部

- 四九 野上孫四郎 東區綠町三丁目
- 一二四 野村菊太郎 東區本町三丁目

長二七 國重 病院 新川驛前

- 五二 藏重平右衛門 西區海岸通

長三〇 山田 清吉 西區海岸通

- 三七 山野紋次郎 西區新町
- 一二〇 八幡炭礦々業事務所 大小路
- 一五二 山田 末松 西區北町

マ之部

- 長一三三 榎谷商會支店 東區本町二丁目
- 長四〇 松村謙之助 東區本町三丁目
- 一三五 松井 榮吉 西區朝日町
- 一三六 前田八百次郎 東區本町四丁目

フ之部

- 一一 藤野 久一 沖宇部草江
- 三三 藤本 利恒 西新川本町二丁目
- 一〇一 藤本 閑作 沖宇部梶返
- 一一一 福川銀行新川支店 東新川本町
- 一一三 藤井 保 西新川島通
- 一三〇 藤井 保 西新川島通
- 一四四 藤本 槌作 東新川本町二丁目

コ之部

- 八 高良 商會 新川驛前
- 一七 高良 宗七 宇部字島
- 二九 小林 貞輔 東新川神原町
- 一一二 河内新太郎 東新川綠町一丁目

エ之部

- 四二 蛭子 末次 東新川新町
- 一一七 江本 弘策 西新川北町
- 一五六 江本勝太郎 東新川見初

ア之部

- 一八 旭 樓 西新川本町一丁目

長三六 粟屋 雪松 西新川濱沖

- 三八 安積 清吉 東新川本町二丁目
- 四四 阿部慶太郎 東新川中町
- 四六 粟屋 治郎 東新川本町二丁目
- 四八 阿部 清市 西新川本町一丁目
- 一〇四 阿野和三郎 東新川本町二丁目
- 長一六一 秋田 文助 東新川本町二丁目

サ之部

- 長三三 佐貫 市郎 藤山村居能
- 長六三 幸 樓 東新川老松町
- 長一一五 山陽鑛泉合資會社 居能
- 一五三 幸樓 支店 東新川老松町

キ之部

- 六一 紀藤閑之介 宇部字川上
- 一五七 京和銀行新川代理店 西新川新町

ミ之部

- 長六 宮地炭礦販賣事務所 東新川
- 一三 水上 寅藏 東新川海岸
- 二八 三井米作支店 西新川朝日町角

- 長四一 見初炭鑛販賣事務所
 - 七三 三隅 義雄 中宇部琴芝
 - 一〇二 三木儀之助 西區本町三丁目
 - 一一〇 三原 幸藏 西區朝日町
 - 一三七 岬 魚市場 宇部岬
 - 一四六 見初炭坑鑛業事務所
 - 一四七 三隅瀧之進 西區新町
 - 一四八 三隅吳服店 東區常盤通
 - 一五九 綠 座 東新川本町四丁目
 - 一六二 宮地炭坑鑛業事務所
- シ之部
- 一一 庄 晋太郎 西新川朝日町
 - 四三 新川鐵工所 西新川海岸
 - 七一 新谷 軍治 中宇部琴芝
 - 長一三三 新長澤炭坑鑛業事務所
 - 一一四 新見初炭坑鑛業事務所

- 一三九 新川 座 西新川中町
 - 長一四五 新長澤炭鑛販賣事務所
 - 長一六三 商船尼ヶ崎扱店 東新川海岸
- エ之部
- 三 東見初炭坑鑛業事務所
 - 一六 東谷 種槌 西新川朝日町
- モ之部
- 五二 元田初太郎 西區朝日町
- セ之部
- 一四一 船城銀行宇部支店 東區本町
 - 一六〇 洗心亭 東見初綠ヶ濱
- ヌ之部
- 五〇 末永 理一 西區北町
 - 七二 末廣 千十 東區本町一丁目
 - 一四三 末富幸次郎 東區本町一丁目
 - 一五八 鈴木安右左門 東區常盤通

各國清酒醬油卸小賣商



伊勢屋商店

宇部西新川北町三丁目

339
415

最新流行

珍柄

吳服

及物

帶地類



長門宇部新川東區常盤通

三隅吳服店

電話百四拾八番

339
415

終

